１９７１年８月７日第３種郵便物認可　毎月１・６の日発行
２００８年　８月　１日発行　　増刊通巻６３１２号

SSKA　全国パーキンソン病友の会会報
愛知県版　４０号

○　丹羽浩介さん、追悼号をお届けします。「やるだけのことはやった。思い残すことは無い」「すこし走りすぎたかな」「なかよく、やってくれ」・・・
深い悲しみを乗り越えて、明るく・楽しい・毎日を　過ごしていきましょう。
○　暑い日が続いています。水分補給に気をつけてください。一般に高齢になると喉の渇きを自覚しにくくなるそうですので、特に注意してください。（越澤）

目　　次

写真でみる丹羽会長　・・・　・・・　益田　利彦　・・・　２ｐ
順天堂大学・水野　美邦　　会長・大道　忠弘　・・・　１１ｐ
本町クリニック・服部　達哉・　服部　優子　・・　・・・　１２ｐ
名古屋大学・平山　正昭　・　・・・　・・・　・・・　・　１４ｐ
中部学院大学・鵜飼　久美子　・・・　・・・　・・・　・　１７ｐ
東海市・神野　久美子　・・　・・・　・・・　・・・　・　１９ｐ
東海市・肥後　ひとみ　・・　・・・　・・・　・・・　・　２１ｐ
臼杵市・久保田　安紀子　　石岡市・清水　晴美　・　・　２３ｐ
札幌市・保科　順子　・・　・・・　・・・　・・・　・　２４ｐ
福岡市・徳永　武重　　北区・吉田　みち子　・　・　２５ｐ
姫路市・馬越　美鈴　・・　・・・　・・・　・・・　・　２６ｐ
緑区・山尾　佐知子　・・　・・・　・・・　・・・　・　２８ｐ
緑区・池田　冨美子　・・　・・・　・・・　・・・　・　２９ｐ
知立市・池田　綾子　・・　・・・　・・・　・・・　・　３１ｐ
安城市・林　三紀子　・・　・・・　・・・　・・・　・　３２ｐ
中区・光川　明男内　京估　　美和町・伊藤　フサ子　・　３３ｐ
清須市 ~~清洲市~~・三宅　和男　・・　・・・　・・・　・・・　・　３４ｐ
蒲郡市・佐々木　義祐　・・　・・・　・・・　・・・　・　３５ｐ
蟹江町・金子　幸枝　　千種区・前田　正史　・　・　３６ｐ
北区・風岡　初代　・・・　・・・　・・・　・・・　・　３７ｐ
春日井市・益田　緑　・・・　・・・　・・・　・・・　・　３８ｐ
安城市・篤永　章子　・・・　・・・　・・・　・・・　・　３９ｐ
緑区・池田　幸夫　・・・　・・・　・・・　・・・　・　４１ｐ
緑区・越澤　博　・・・　・・・　・・・　・・・　・　４３ｐ
尾張旭市・則竹　昌常　・　・・・　・・・　・・・　・　４５ｐ
『臨済録』のなかから　　丹羽　浩介　・　・・・　・　４６ｐ
友の会の歌・応募歌詞　・・　・・・　・・・　・・・　・　５６ｐ
一日交遊会に参加しての想い　南区・山田　良知　・・　・　６０ｐ
名大病院ナディックでの音楽療法と院内コンサート　・　・　６１ｐ
パーキンソン病と特定疾患の一部改正　　益田　利彦　・　６２ｐ

写真でみる
丹羽会長の足跡

H.14.4.14. 総会
東海市 しあわせ村

H.14.6.9. 一日交遊会
愛知県健康プラザ

H.14.10.17-18.
一泊旅行
三河リゾートリンクス

H.15.4.27. 総会
東別院会館

H.15.4.11.
パーキンソンデー
国会請願（東京）

H.15.10.3-6.
アジア太平洋・パーキンソン病
シンポジュウム
韓国ソウル

愛知県からの参加者

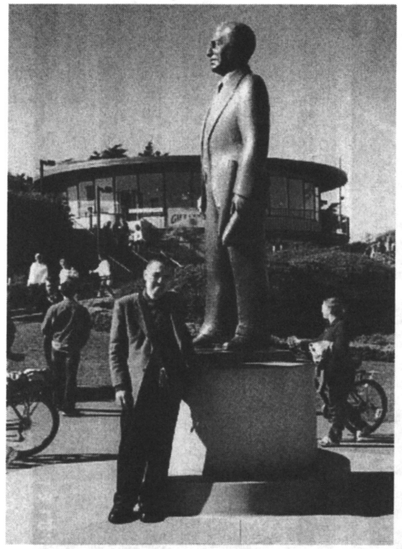
もう パーキンソン病と 呼ばないで

パーキンソン病を
飲み込む人たちの記録

平成15年6月6日　　初版発行
著者　　丹羽　浩介
発行所　　(有)一粒社

（カバー写真より転載しました）

全国パーキンソン病友の会
愛知県支部長
丹 羽 浩 介 著



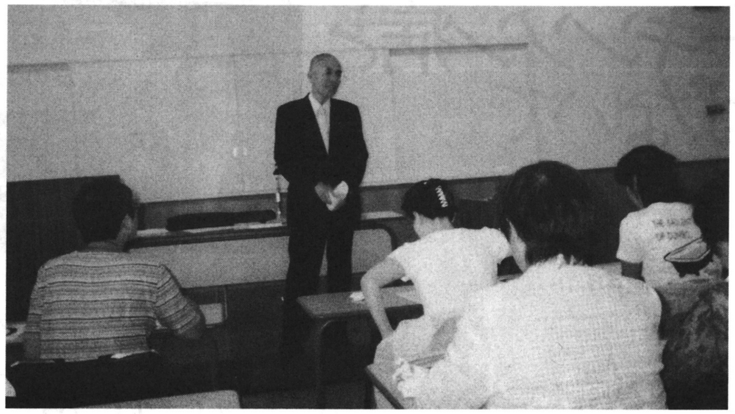
丹羽さん（銅像の前で）

会報編集部の合宿風景

H.16.8.　本部の会報編集に忙しい丹羽編集委員長

H.16.1.31 ～ 2.7.
アメリカ・サンフランシスコ周辺の
医療関係施設視察団に参加の
丹羽会長

H.18.5.6.　総会・医療講演会　名古屋市総合社会福祉会館



H.17.8.25.　なごやかスタッフ種別研修会　名古屋市御器所・高齢者就業支援センター
ヘルパー 100 人とパーキンソン病友の会 10 人で意見交換

H.18.4.1.
役員会
東海市・事務所

H.18.6.21.
第 30 回全国総会で答
弁中の本部副会長の
丹羽浩介氏
東京都江東区公会堂

H.18.11.12.
医療費助成外し反対の
街頭署名活動でNHKの
インタビューを受ける
丹羽会長
名鉄・名古屋駅前

H.19.6.7.
一日交遊会
風船バレーでリハビリ
名古屋港フラワーガーデン
「ブルーボネット」

H.19.6.21.
交流会

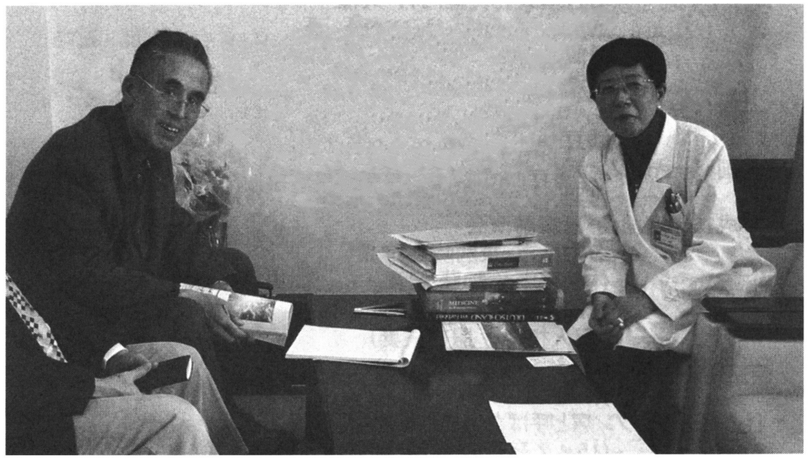
H.19.6.21-22.
全国パーキンソン病友の会
第 31 回全国総会・大会
（名古屋大会）
名古屋市
名鉄・ニューグランドホテル

H.19.6.22.　午前
体験発表中の丹羽会長

交流会で
丹羽支部長と本部斎藤会長

H.19.6.22.　午後　シンポジウム

H.19.7.7.　関さんの庭でハスの花を観賞



H.19.12.7.
山本院長に院長室
でインタビュー
丹羽会長の最後の
仕事となりました。
三日後に名大病院
に検査入院。

H.19.12.7.　「山本纐子医師に聞く」（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院院長・教授）

H.20.2.24.　名古屋大学病院にて最後の口述筆記を頼まれた日

写真でみる丹羽会長 （作成資料）

写真

① 14.04.14 平成14年度総会・医療講演会
東海市・しあわせ村　3F会議室
10.30-12.00. 総会・体験発表
13.00-15.00. 医療講演会
講師； 本町クリニック・服部神経内科
院長;服部 達哉 医師　服部 優子 医師

14.05.17-18 第26回全国総会・大会
千葉県木更津市 「かずさアカデミアセンター」
新役員； 清水 昇勝 会長　丹羽 浩介 幹事

② 14.06.09. 一日交遊会
大府市　愛知健康プラザ 「健康の森」
名古屋市教育委員会 中島先生を迎え

14.10.12. 医療講演会
一宮市 ・アイプラザ一宮 「一宮勤労福祉会館」
名古屋大学神経内科・共催
講師； 名大 祖父江 元 教授
講師； 香川県立中央病院 山本 光年 医師
個別相談医師； 服部神経内科 服部院長・服部副院長

③ 14.10.17-18. 一泊旅行
幡豆郡吉良町・「三河湾リゾートリンクス」

⑤ 15.04.11-12. 全国パーキンソンデー 国会請願集会参加
丹羽、中島、肥後、伊藤、奥田、(5名)

④ 15.04.27. 平成15年度総会・医療講演会
名古屋市・東別院会館 2F
体験発表； 加藤 紀章, 下村高史(非会員)
講師； 服部 優子医師
(個人相談； 服部夫妻)

15.06.04. 一日交遊会
東山動植物園

⑦⑧ 15.06.06. [もうパーキンソン病と呼ばないで] 丹羽さん出版
(15.4.7.発行の 会報・別冊増刊号に掲載)

15.06.07-8 第27回全国総会・大会に参加
福井県・金沢ニューグランドホテル
丹羽、加藤、肥後、伊藤、 (4人)

⑥ 15.10.03-6. アジア・太平洋・パーキンソン病シンポジウム
韓国・ソウル
丹羽、則竹、中島 参加 (全国32名)

15.10.25. 医療講演会 名大神経内科と共催
名古屋駅前 中小企業センター
面講師； 水野 美邦 順天堂大学教授
総合司会； 祖父江 元 名大神経内科教授

⑨ 16.01.31-02.07 アメリカ医療関係施設視察団に 丹羽氏参加
アメリカ・サンフランシスコ周辺
日本製薬工業会の招きで、

16.04.17. 平成16年度総会・医療講演会
名古屋・東別院会館 2F
講師； 佐橋 功　愛知医科大学教授

16.04.01. [丹羽 浩介会長　愛知県難病団体連合会(愛難連)会長に就任]

16.05.27. 一日交遊会
名古屋港水族館

16.06.19-20. 第28回全国総会・大会 参加
福岡市・ 総会;シティホテル、大会;福岡国際会議場
丹羽、則竹、肥後、伊藤、 (4人)

⑩ 16.09.07-8. 本部会報編集委員長として活躍の丹羽氏
合宿して本部会報100号を編集中

16.10.23-24. 一泊旅行
知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」
(愛知県南知多老人福祉会館)

17.04.11. 全国パーキンソンデー 国会請願集会参加

17.04.23. 平成17年度総会・医療講演会
名古屋市総合社会福祉会館
体験講座； 丹羽会長
講師； 名大脳神経外科医学博士 梶田 泰一 先生
本町クリニック 服部 達哉 先生・優子先生

17.06.10. 一日交遊会
中部国際空港 セントレア

17.06.16-17 第29回全国総会・分科会 参加
東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
丹羽、肥後、鈴木 (3人)

⑫ 17.08.25. なごやかスタッフ種別研修会 (ヘルパーと患者の意見交換会)
名古屋市・御器所ステーションビル5F
(高齢者就業支援センター)
ヘルパー100名、友の会会員10名

17.10.20-21. 一泊旅行
大府市　愛知健康プラザ 「健康の森」
国立病院機構・東名古屋病院院長 松岡幸彦 先生

17.10.29. 医療講演会
豊橋市・中部地区市民館
講師； 名大神経内科 平山 正昭 先生、渡邊 宏久 先生

18.03.26. 医療講演会
半田市福祉文化会館 「雁宿ホール」
講師； 名大神経内科 平山 正昭 医師

⑬ 18.04.01. (事務所で」役員写真)

18.04. (この人に聞く) (本部会報 18.5.20. No.105)
水野 美邦 医師　聞き手; 丹羽浩介

18.04.11-12 全国パーキンソンデー 国会請願集会参加
丹羽、越澤、大道、河嶋、 (4名)

⑪ 18.05.06. 平成18年度総会・医療講演会
名古屋市総合社会福祉会館
講師； 名古屋市立大学 脳神経外科 梅村 淳 医師
本町クリニック 院長 服部直哉様・服部優子様に感謝状を贈る

18.06.15. 一日交遊会
ブルーボネット
本町クリニック 院長 服部直哉・服部優子医師
看護師 4人、 作業療法士 1人

⑭ 18.06.21-22. 第30回全国総会・大会 参加 (丹羽本部副会長)
東京・江東区公会堂
丹羽、大道、山尾2、益田2、 (6人参加)

18.11.04-5 一泊旅行
大府市　愛知健康プラザ 「健康の森」
講師； 国立長寿医療センター　新畑 豊 医師

18.11.11. 医療講演会
豊田市・とよた市民活動センター (豊田松坂9F)
講師； 安田 武 医師 (トヨタ記念病院)
鷲見 幸彦 医師 (長寿医療研究センター)

⑮	18.11.12.	街頭署名活動	
		10時～11時	名古屋・名鉄名古屋駅前
			愛知県支部と岐阜県支部と共催
	19.04.11.	全国パーキンソンデー 国会請願集会参加	
			丹羽、山尾、池田2 （4人）
	19.05.12.	平成19年度総会・医療講演会	
			名古屋市総合社会福祉会館
			講師； 藤田保健衛生大学・坂文種報徳會病院院長
			山本 繻子 教授
⑯	19.06.07.	一日交遊会	
			ブルーボネット
			講師； 埜口 義広 先生 碧南市民病院
			リハビリテーション作業療法士
	19.06.21-22	第31回全国総会・大会 （名古屋大会主催）	
			名古屋・名鉄ニューグランドホテル(7F)
	6/21	9.00-11.00	（本部役員会） 大道幹事
		13.00-17.00	総会 大道幹事 代議員： 丹羽、益田
⑰⑳		18.00-20.30	交流会 （出席者290名）
⑱⑲	6/22	9.00-11.00	体験発表 （全国11人、内愛知県;丹羽、山尾、肥後）
21,22		13.00-15.00	シンポジウム
			名大・ 祖父江元教授、平山正昭医師、渡邉宏久医師
			本町クリニック・服部優子医師
			名市大・梅村淳医師
			患者代表・丹羽浩介
23	19.07.07.	関家のハス鑑賞会 （役員会の後）	
	19.10.27-28	一泊旅行	
			知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」
			（愛知県南知多老人福祉会館）
			名大・平山正昭先生
			東海市議・神野久美子先生
	19.10.30.	医療講演会	
			名古屋市総合社会福祉会館
			講師； 国立病院機構・東名古屋病院神経内科
			饗場郁子 医師
			山根碧看護師、嵯峨守人理学療法士
24	19.12.07.	山本繻子医師に聞く （丹羽会長最後のお仕事となる）	
			講師； 藤田保健衛生大学・坂文種報徳會病院院長
			山本繻子 教授
			聞手； 丹羽浩介
			場所； 院長室
	19.12.10.	（丹羽会長 名大病院に検査入院）	
	19.12.16.	街頭署名活動 （丹羽会長 欠席）	
		10時～11時	名古屋・名鉄名古屋駅前
25	20.2.24.	（丹羽会長口述筆記 名大病院にて）	
	20.2.27.	一日交遊会 （丹羽会長欠席）	
			名古屋市北生涯学習センター・視聴覚室
			講師； 音楽療法 鵜飼久美子 先生
			体操・リハビリテーション 埜口義広 先生
	20.02.28.	（丹羽会長 ホスピスに転院）	
	20.04.09.	（丹羽会長 永眠 朝5時40分）	

写真の提供は鷹羽勝造さん始め会員の皆様です。　　編集　益田 利彦

順天堂大学老人性疾患病態治療研究センター　**水野　美邦**

この度の丹羽浩介様のご訃報に接し、心よりお悔やみ申し上げます。

丹羽浩介様には、特別の思い入れがありました。名古屋にお招きいただき、講演をさせていただいたことがございますが、パーキンソン病でこんなに明るいかたがおられるのか、と大変驚かされました。また極めて強力な指導力で、愛知県の患者さんのみならず、全国のパーキンソン病の患者さんに明るい希望を与え続けておいでになりました。全国あちこちへ招かれて講演なさっておられたことも聞いております。極めて貴重な方を失ったと思います。

皆様のお悲しみお察し申しあげます。丹羽浩介様がなさりたかったことを皆様で継承されて、パーキンソン病の方々に明るい明日への夢を与え続けてくださることを心よりお願い申しあげます。

丹羽浩介氏の夢、その完遂に向けて　　会長　大道　忠弘

あまりにも突然の旅立ちでありました。
厳しい中にも優しさを秘めた二歳年上の兄貴の様な存在でした。その丹羽氏を全国的に有名にしたＡＴＭ、つまり“明るく、楽しい、毎日を”という言葉です。この言葉は患者会の理念とも言える言葉であります。とにかく患者自身が明るいことが大切だからです。

この明るさを丹羽さんの夢として完遂させてほしいと水野美邦教授よりお手紙を頂戴いたしました。本当に喜ばしいことです。それと丹羽氏が最後に頑張りすぎることは自分の心を蝕んでしまうということを死という代償を以って教えていただいたことになるとは。

丹羽氏が一生を通して追求してこられた大命題の火を消すことなく患者会の役割（使命）として志を同じくする仲間とともに完遂に努力いたすことをお誓い申しあげます。

安らかにお休みください。

丹羽浩介様へ　　本町クリニック　　服部　達哉

私が本町クリニックを開業したのが 9 年前。開業して間もない頃ですから、もう 7-8 年になりますでしょうか、パーキンソン病友の会の集まりでご一緒したのが丹羽さんとの最初の出会いでした。その後、治療法について講演を頼まれた時、まじめなパーキンソンの方は、皆さん一生懸命聞いていて下さったのですが、丹羽さんは最初から最後まで椅子から落ちそうな勢いで寝ておられたのをよく覚えています。よほどつまらなかったのだろうと思い、以後はいかに丹羽さんを寝かせないようにするか考えて講演するようになりました。それでも最初の 2-3 回は、居眠りされてしまいましたが、回数を重ねるうちに、徐々に最後まで聞いていただけるようになってきました。今思うと薬の影響もあったのかもしれませんが、それ以上に自分を成長させていただいたという思いを丹羽さんに抱いております。

療養についてのアンケートを愛知県パーキンソン病友の会のご協力で取らせていただき、昨年その結果を医師の集まりで報告させていただきました。友の会にも報告したいと思い、病床の丹羽さんの所へ届けました。もう少し直して下さいと言われたところで、本当に寝てしまわれてしまいした。物言われなくなった後でもまだ教えられている気がします。もう少し手直しをして、丹羽さんがまた寝ないような報告をしたいと思っています。

昨年の全国総会の頃、くれぐれも無理しないよう伝えたつもりでしたが、せっかく入院してもすぐに退院され、驚いたことを昨日のように思い出します。パーキンソン病の方は、せっかちな方が多いと思っていましたが、丹羽さんはさらに特別だったように思います。私は、そんなに急がなくてもとよく申し上げておりました。今思うともっと強く言っておけばと後悔しますが、丹羽さんは自分の納得するように生きていかれたのだろうと思います。

ホスピスに移られた後、本町クリニック 10 周年記念コンサートの際には私の席も用意しておいて下さいとおっしゃっておられました。来年 7 月に予定しています。丹羽さんと再会できることを楽しみにしています。

リスト作曲「ため息」ー丹羽会長へ捧ぐー

本町クリニック　服部　優子

丹羽さん、もうお釈迦様にはお会いできましたか？　相変わらずお忙しい毎日を送っておられるのではないか案じています．あなたは突然私たちの前に舞い降り、嵐のごとく私たちの前から去って行かれました．色々な思い出を残して．

本当に色々な思い出がありますが、丹羽さんはオペラがお好きで音楽のお話しを良くさせていただきました．昨年のパーキンソン病友の会総会の際にも、丹羽さんが昔、ウィーンフィルで聞いたという「ラデッキー行進曲」を選曲し、皆で盛り上がりましたね．

私は今でもピアノを細々と続けているのですが、年に一度発表会があり、小さな子どもさん達に混じって、しかも四十肩による肩の痛み（20代で発症！）と、ばね指による右中指の故障（今年発症）を抱えながら何とか出演し続けています．そんな私の小さな発表会に、どこで聞きつけたのかいつも何人かの患者さんが聴きに来てくださいます．ちょうど4年前の発表会に、演奏前のおじぎをしたときに何か見たことがある人が客席正面にいるなと思ったら丹羽会長でした．
意地悪なことに舞台から眺めるとちょうど視界に入る位置に、イヒヒ．という様な顔をして丹羽会長が座っておられるではありませんか．そのときはショパンのバラード一番という長い曲を弾いたので、弾き始めてしまえば集中して客席を見る余裕が全くありませんでした．でも終わっておじぎをすると、丹羽さんは満面の笑みで会場一杯に響くような大きな拍手をしてくださっていました．さっそく客席に戻って感想を聞こうとしたらもういらっしゃらず、結局感想は聞けずじまいでした．大きな真っ白な胡蝶蘭の鉢植えを母に言付けてくださっていたのでした．

実は今日（7 月 13 日）、今年のピアノ発表会がありました．リストの「ため息」という曲を弾きました．とても切なく美しい曲です．わたしは演奏する前に、ー丹羽さんに捧げるーと楽譜に書いて心を込めて弾きました．ピアニストのフジ子ヘミングさんに、「わたしの人生はため息ばかりだったわ．でも最後に世界の人をあっと驚かせるため息にするの」と言わしめた名曲．丹羽さんに届いたでしょうか．今度こそは感想を聞かせてください．今私たちは、丹羽さんを失った、深い悲しみの「ため息」ばかりをついていますが、大道会長のもと、会員全員がひとつになってしあわせと安堵の「ため息」に変えていけるよう願っています．丹羽会長、どうぞ安らかに．そしてもうそんなに急がないで、私たちをずっと見守っていてくださいね．

丹羽さんの思いで

名古屋大学医学部土木学科　平山正昭

丹羽さんとの思い出で最も印象深いのは、私が今週は学会に行ってきますというと、先生また土木学会ですかと笑いながら話されたことです。この土木学会の話は、半田市のパーキンソン病友の会の講演を頼まれた時だと思います。いつものように、ネクタイも締めずに講演会に向かい、壇上で発表することになりました。確か、寒かったと思うので、着ていったのは白いスキーウェアです。発表内容は、初めての半田市の会ということでごく一般的なパーキンソン病の話だけを行ったのですが、何か面白い話を入れようということでちょうど数年前に、厚生省の班会議に参加した時も寒かったので、スキーウェアを着ていった時の話をしました。その班会議は神経の班会議でしたが、ちょうど同じ階で土木関係の会議もやっていました。私は、神経の班会議の受付をしようと思うともう一方のところから、“ちょっとそっちは違うよ”と私と同じようなむさ苦しいおじさんが受付から声をかけます。そちらに呼ばれて、“医学系の班会議に来たのであちらでいいと思うのですが”と答えると受付のおじさんは“すまん、すまん”と謝っていました。この逸話が結構丹羽さんは、気に入ったようでそれ以後、私が学会の準備ですとか言うと“医学系の土木学会ですか”といつも言うようになりました。受けがいいので、ちょくちょくこの話はします。全国大会でも話したので聞いた人もいるかもしれません。丹羽さんもどうも日本ガイシの仕事をしていたので親近感を持ってくれたのかもしれません。

もう一つ受けたのは、全国大会で私の話したうちの奥さんの話です。私は、結構ストレスに弱く3回も円形脱毛症になりました。ちょうどその時に、友人で頭痛がひどい人がいて、その頭痛も心因性なので、自分のはげを見せて、“ストレスはいろんな格好で出てくる。僕は円形脱毛症になったけど、あなたは頭痛だ。ストレスを身体症状で発散しているのだから仕方がないよ”と話したのですが、それをうちの奥さんが見て、“禿げ見せて患者励ますマイダーリン”と言う川柳を作って、伊藤園のお茶の川柳コンクールに投稿したら、賞をもらったという話をしたらこれまた非常に受けました。さらに、ここで私のはげが全国的に発表されてから、その後開き直って円形脱毛症が出なくなったと話したら、精神の力について丹羽さんからお話を受けました。いい思い出です。ただ、我が奥さんの川柳には後日談があります。調子に乗って投稿していてある時“眠れないと口開け昼から　寝てる母”という川柳も載ったのですが、ちょうどその採用の通知がうちの母にばれてしまいました。以来川柳の投稿はやめました。この話は、丹羽さんにはしてなかったので、どこかで読んでいたら笑ってください。

さて、丹羽さんというと、文章の形式に非常にこだわっているのが印象的でした。ある日突然“先生、先生は私の言うことをちっとも聞いてくれない”と言って現れたことがあります。いったい何のことか分からないまま話していると、どうも私の送っていた原稿が、丹羽さんの言ったワードの書式にあわないのだということです。私の研究室で、その後は延々とワードのこの書式についてこれが一番私の考えるみんなに読みやすい書式だということを話されました。そこで初めて以前は労働組合の委員長をして、会報などを出していたことを知りました。以前から私は労働組合は大嫌いだなどと言ってましたが、きっと嫌な顔を隠しながら聞いていたのでしょうね。ただ、あの文章の書式に異様にこだわる性格は、パーキンソン病のプンディングと言う性格にそっくりでした。プンディングというのはパーキンソン病で時々あることが気にかかってしまうとそれ以外のことができなくなってしまう症状のことです。あの時の丹羽さんの話し方が、まさにそれでした。プンディングというとパーキンソンの症状としては、ドーパミン調節障害の一症状と言われているのですが、いい方向に向いていると、問題ないので、丹羽さんには悪いのですが症例報告の典型をみているようでした。

私には、丹羽さんと共通点があります。それは、ミステリーが好きなことです。お見舞いに行っていると、そのうち話すこともなくなるので、何のきっかけか本お話しになりました。その中で、フリーマントルのチャーリー・マフィンシリーズの話になりました。知らない人も多いと思います。このシリーズは、“消されかけた男”と言う題の小説から始まるチャーリー・マフィンというスパイを主人公にした小説です。スパイというと007のような小説を思い浮かべるでしょうが、この主人公は、どちらかというと職場ではうだつが上がらないスパイなのにいざ実際に現場に出ると上司の鼻を明かして手柄をたててしまうので上司には疎んじられちっとも昇進できないスパイの話です。“消されかけた男”の最後は、その上司を罠にかけて、ソ連の大物将軍が西側に亡命するように見せかけて失脚させる話。“先生あの最後のどんでん返しは面白かったですね。”とニコニコしながら話されていました。丹羽さんも、きっと上司からは結構嫌われていた優秀な会社員だったのでしょうね。丹羽さんの委員長時代の活躍が目に浮かぶようです。他にも、カッスラーのダーク・ピットシリーズやディック・フランシスの競馬シリーズ、フォーサイスやヒギンズの小説について話していると、あっという間に時間が経ちました。では、今度小説でも持って行きますよと持って行ったのが、ディック・フランシスの最新の小説です。実はこの小説作者のディック・フランシス、この6年前に愛妻をなくししばらく筆を置いていたのですが、息子のフェリックスと一緒になって書いたもので、その名も“再起”。主人公もシド・ハーレーというディック・フランシスの小説がマンネリ化して面白くないと言われる時に必ず登場して、ディック・フランシスの評価をカンバックさせるものです。ちょうどいいと思って持って行きました。数日後には読んでしまっていて、“面白かったですよ”と言われました。本には力強くありがとうございましたと書いてありました。残念ながらその後検査をすればするほど、いいデータは出ず。結

局手術は難しく、抗がん剤療法も適応外、転移巣のガンにより痛みが増えるばかり。結局行うことと言えば、モルヒネや硬膜外麻酔などの痛みの治療しかできなくなりました。日に日に食も細って行くうちに最後は、“先生、もう何もすることがない人間が大学のようなところにいても仕方がない。ホスピスに行くことにする。”といわれました。私としては、あまりホスピスというのは、まだ日本では十分でないとは思っていたのですが、決めてしまってからは、今度は話すことは、“ホスピスがまだ空かないようだが、空かないということはまだ人が一人死んでないから、幸せなことですよ”と達観した顔つきになっていました。小説のように“再起”とはならず、残念です。

びっくりしたのは、お坊さんというのにお葬式がなかったこと。まるで、自分の職業の逆を行っているようで、最後の最後まで丹羽さんらしいユニークな発想です。死して10日間、まるで武田信玄のようですね。

最後に、会長が死んだのは2008年4月9日、私はその49年前1959年4月9日に生を受けています。会長の代わりはできませんが、今まで以上に友の会には、協力をしたいと考えています。よろしくお願いします。

丹羽会長様を偲んで

中部学院大学　**鵜飼久美子**

全身にエネルギーが漲っておられ、この世からお姿を消されるなどとは想像だにしなかった丹羽会長さんが、ご家族や会員の皆様の願いも叶わず、とうとう逝ってしまわれました。この世の常とはいえ、残念で仕方ありません。
でも、あの会長さんのことです。きっと天上から、友の会のことを心配しつつ「あとは任せましたよ」と、いつどんな時にも見守って下さっていることでしょう。

会長さんと私の出会いは、真夏の強い日差しが照りつける昨年７月２６日でした。その日は、名大病院ナディックにおいて、音楽療法の研究協力をお願いするため、会員の皆様に集まっていただいていました。
会場の準備をしていると、「丹羽です」と会長さんから声を掛けていただきました。私は会長さんの突然の挨拶に慌てて、「あっ！会長さんですか。鵜飼です。よろしくお願い致します」と答えるのが精一杯でした。
お会いしてみると、不思議なことに、まるで何年も前から付き合いがあったような感覚にとらわれました。何故かなと考えますと、多分いつも直球で相手に向かってこられたからでないかと思います。ここはという時にはズバッと投げ込んでこられ、上辺だけのことは、決して口にされない。そして、常にユーモアたっぷりで、実に魅力的な方でした。

このような始まりでしたが、折にふれて、電話をいただくことがありました。例えば、どうしたら皆さんがトレーニングを継続できるか、といった秘策？を伝授してくださったこともありました。その秘策とは、“30日間は長いので、トレーニングのモチベーションが下がる人もあります。中間あたりで電話をかけて、どんな調子ですか？とたずねるのがよいですよ”といったことでした。確かに、トレーニングを続けることは、トレーニングをしようという意志が必要ですが、その意志を強力にするには、皆さんと私のコミュニケーションも大切な要素です。たった一本の電話によって、それができるならば、簡単なことです。考えてみますと音楽療法の現場でも、そこに参加する人々のコミュニケーションが重要となってきます。会長さんは、そのポイントを突いてこられました。

また、こんなこともありました。日曜日に電話をいただいたことがあったのですが、私はたまたま大学で仕事があり不在でした。電話に出た夫の声が会長さんには張りのない声に聞こえたようで「先生、だめですよ。あまり出かけてばかりで、ご主人元気なかったですよ」と言われてしまいました。本当に、直球でこられますので、一瞬返答に困り

ますが、このように自然体でコミュニケーションをとられますので、信頼感が深まります。会長さんとは、実質4ヶ月余りのお付き合いでしたが、エピソードはつきません。

私は現在、患者さんの声が出しづらい、声が小さい、声がかすれるといった症状（構音障害）を改善できないか皆様にご協力いただきながら研究を進めています。会長さんは、昨年6月の全国総会のシンポジウムでも、次のように発言されています。
「本格的な病気の進行は、会話能力の低下に始まるような気がします。この症状（構音障害）が起きると、人と共有する時間が減少していき、在宅時間の多くを孤独な内に過ごします。身体も動かさなくなり脳の働きが低下します・・・・」以上のことを述べられた会長さんですので、私の取り組みに大きな理解を示してくださいまして、
「先生、よくぞ私たちのために、考えていただきありがとうございます。友の会として、できることは何でもやりますので、よろしくお願いします」といったことを、繰り返しおっしゃってくださいました。
また、事務局を会場として音楽療法を定期的に開催することも考えてくださったようでした。

年明け早々に、越澤さんより「丹羽会長が入院されました」とお聞きし、それも治療がかなり難しい病気とのことでしたが、すぐには信じられない思いでした。面会謝絶ではありましたが、平山先生の後について病室には二度伺いました。確かにベッドには伏せておられましたが、気力は以前と変わらず、短いお話の中にも「死」を予感されているお言葉もありました。しかし、全力で病気に立ち向かっておられることも、そのお言葉から伝わってまいりました。会長さんがおっしゃっておられた「病気を受け入れる」を再び実践しておられ、すべてを受け入れて病気と闘っておられると思いました。ですから、「死」を覚悟しつつも、前を向いて生きていらっしゃる。私はそのような会長さんに「頑張ってください」「よくなられるように祈っています」ということが言えませんでした。ただただ「どうぞ、お大事になさってください」が精一杯でした。

私も、やがては同じ道を歩むことになります。その道の歩き方を教えていただきました。感謝の気持ちで一杯です。

会長さんのご冥福と奥様に平安が訪れますよう、心よりお祈り申しあげます。

合掌

丹羽さんは先生

東海市　神野久美子

私が初めて丹羽さんにお会いしたのは、2001年の12月頃知人を通じてでした。緊張していたので、何を話したのかよく覚えていません。2002年4月から、市議会議員として活動する中で、丹羽さん宅に伺った折、「何を勉強したらいいのか」と相談すると、「選択、Ｖｏｉｃｅ、日経マネーを読みなさい」とアドバイスされました。それからすぐ取り寄せ読みましたが、日経マネーは日本経済新聞に変え読み続けています。この3点セットは、バランスがとても良くて、日本・世界の動向や考え方などとても勉強になっています。持続は力なりを実感しています。

丹羽さんは、話していて突然「これについてどう思うか」と質問されるので、いつも緊張していました。話も多岐に亘っており、大変興味深く聞かせていただきました。特に印象に残っているのは、アーノルド・トインビー博士の「歴史の研究」を読みなさいと言われ、県立図書館に借りに行ったことです。時間がないからと、「図説歴史の研究」にしなさいと言われました。世界の歴史がどういった流れになっているのか知ることができました。塩野七生のローマ人の物語、山本七平の日本人とユダヤ人、司馬遼太郎の坂の上の雲など薦められ、たくさんの書物も読むことができました。基礎が大事だからねと言われました。

あるとき私が、予算・決算がどうも苦手だと言うと「予算・決算書を持って来なさい」と言って、基本的なところを教えて下さいました。なんだか飲み込めたように感じました。それから、決算書の読み方がおもしろいほど解る本や、勘定科目の仕訳け辞典、簿記検定3級基礎編など購入され勉強するよう渡されました。その後テストです。これは、貸し方か借り方かなど。とにかく、自分で数字を入れてみること。そうすれば見えてくるようになると言われましたが、忙しさに感けてなかなかできませんでした。ところが5月に、地方財政の勉強会が東京であり参加することになりました。やはり自分で、数字を経年ごとに書くしかないと思いやってみると良く解るのです。丹羽さんに言われたことを、もっと早くやるべきだったと反省しました。

とにかく、判断力と行動力はすごいと思いました。気になることがあると、そこに誰がいようが、何をしていようが関係なく、そのことに傾注でき次々に手を打たれるのです。2006年8月国が、特定疾患の医療費補助の適用範囲の縮小を検討しているという情報を知った時です。丹羽さんはすぐに、公明党の山本保前参議院議員を訪ね、医療費補助継続に対する力添えを強く要請されました。それとともに、厚労省の担当部署に出向き訴えられました。そして、医療費補助の継続を勝ち取ったのです。皆さんのために一生懸命です。

丹羽さんの友人宅や、パーキンソン病友の会のメンバーのお宅もたくさん訪問させていただきました。皆さんの反応はとても良くて、「まあ丹羽会長さんですか？どうぞ上がってください」と言われ、上がって最低でも1時間は対話でした。一生懸命話をされ、また聞き楽しい時間はあっという間に流れて行きました。大正琴を弾いてくださった方や、趣味の写真を見せていただいた方など。話していると、お昼になってしまいパンを御馳走になったお宅もありました。どうぞと言われたので、2個目のパンをおいしく頂いたら、後で丹羽さんが「神

野さんは２個も食べた。１個じゃ足りないわな。」と笑うのです。そのパンは本当においしかったのです。「今度みえるときに、また買っておきますね」とも言っていただきました。次に伺ったお宅では、今近所のスーパーに買い物に出かけたところですと言われ探しに行くことになりました。一度も会ったことがないというのに、見事にその人を見つけ出し、車で家に行きお話したこともありました。私は、ただビックリしていました。ある方は、ショートステイに行っているというので、奥さんを車に乗せ施設まで会いに行ったこともあります。愛知県中を走り回り、東奔西走とは正にこのことだと思いました。

車で移動中ほとんど丹羽さんが話しています。急に私に話を振られることがあるのですが、そんなときは困ってしまいます。聞き役に徹しているのに、突然何を話したらいいのかと。静かになったら睡眠中です。それも突然やってきます。今のいままで話していたのに・・・と笑ってしまいました。前に、車をぶつけた話を聞きましたがこれでは危険過ぎます。

昨年の全国パーキンソン病友の会の総会はすばらしかったです。大成功でした。丹羽さんは、「役員の全員がそれぞれの役目をきちんと成し遂げてくれた。本当に良かった。皆でするからいいんだ。饅頭も良かったでしょう。会場をホテルにと越澤さんが手配してくれたことも良かった。食事も良かった。警察、消防署に挨拶に行ったのも良かった。総会にこんなに人が集まったのもないことだった。何か問題があっても役員で解決してくれた。医療講演会には、祖父江教授をはじめすごい先生が集まってくれて良かった。すべて良かった。」と何度も何度も言ってみえました。その少し前から、食事の量が減り痩せてみえたので、「大丈夫ですか」と言うと「夏はいつも食べられなくなるからこんなもんだ。」という答えに納得をしてしまいました。でもいつまで経っても体重は戻らなかったのですね。会報３６号、山本病院長との対　　いです。

丹羽さんが、12 月１０日に入院されてからの検査結果を聞いた私は、ショックで何とかならないものかと手当り次第本を読み、知り合いの医師・看護師に相談したりと落ち着きませんでした。当の丹羽さんは、ご自分の言ってきた通りすべてを受け入れてみえました。でも、背骨に転移していていつ折れてもおかしくないと言われたことは相当堪えたようでした。コルセットをはめたことと、放射線療法もきつかったようです。しかし、見舞いに訪れた人たちを、励まし笑わせたりと、いつもと何ら変わりませんでした。最後まで、丹羽さんの美学を追求すると言ってみえました。心静かな最期はその通りのすばらしい御姿でした。

３月初め、３月議会の一般質問の原稿を持って病院に伺うと、インパクトが弱いな。こうしたらどうかとアドバイスしてくださるとき、頭がくるくると回転しているのがわかるのです。そういえば、頭の検査をしたら脳が真っ赤だったと言われたと、とても嬉しそうでした。「東海市を良くしてください。私の願いはそれだけです。」と何度も言われました。心を込めて訴えるようにとも言われました。心こそ大切なれです。私は解りましたと答えました。このことを忘れず、一生懸命取り組んでまいります。丹羽さんには、本当にたくさんの事を教えていただき、育てていただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

昨年顧問という大役をいただきました。
「皆でやっていけばいいんだ」と言われたこととＡＴＭを胸に、賑やかに楽しく関わらせていただきます。

丹羽さん、いつまでも見守ってくださいね！

ありがとう丹羽会長

東海市　肥後　ひとみ

桜が散るのと一緒に丹羽会長が亡くなられた。毎年桜が咲くと自分を思い出してほしくてこの時を選んだかのようで丹羽会長らしい最後だったと思いました。私は２月に実母を４年間の入院生活の甲斐もなく亡くしました。丹羽会長は私にとって、友の会の会長であり、病・人生の先輩であり、なんでも相談できる頼れる父親みたいな存在でした。時が経つにつれいろんな思い出が浮かんで来て一人涙していましたが、もう泣きません。丹羽会長は涙が嫌い、特に暗い話が嫌いな方でしたから、これからは明るく行きます!」

会長と初めてお会いしたのは保健所主催の「難病患者とその家族のつどい」です。私は「この人本当に病人？」丹羽さんは「無愛想な子」と第一印象はお互いにあまり良くなかったのですが何回か会ううちに丹羽会長の話術の上手さに引き込まれ、いつまでも話を聞いていたい気持ちになり、友の会の支部長になればよいのにと思っていたらその後本当に支部長になられました。

支部長になった丹羽さんが私に「パソコンできるか」と言われるので「打ち込みぐらいなら」と答えると「じゃ会報作り手伝って」と言われ、最初は断りましたが「パソコンをできる人がいないから是非」と言われ、「文章を書くことが苦手で書くことはちょっと・・・」と言ったのですが「文章の書き方を教えてあげるからやって貰えないだろうか？」と言われるので「そこまで言われるのならやります」と言い現在に至っております。

丹羽会長といえばよく一緒にいろんな所へ行きました。一度尋ねたことがあります。「なぜ私を連れて歩くのですか？」その答えが丹羽さんらしく「あなたは普段はどうでもいい格好をしているが出かける時は高級なものは着ていないが、センスいい物を着ている。それに若いし連れて歩くのに見栄が良くていい」とおっしゃって、それで私をお伴に連れて歩くのだと納得しました。確かに外出する時はそれなりの格好をして行きます。そうじゃないと相手の方に失礼だと思うからです。丹羽さんもおしゃれでしたよね。ピンクが好きでよくピンクのヤイシャツやネクタイをされていましたよね。新しい物を買うと私に見せ感想を求められました。丹羽さんこそ良いセンスしていると思いますよ。

丹羽会長にはいろんな事を教わりました。「Ａ・Ｔ・Ｍ」「明るく・楽しい・毎日を」病気になり明るくなる人はまずないと思います。一度はどん底まで落ち込んでそれで這い上がってきた人が明るい人なのじゃないでしょうか。明るく生きるも、うじうじして下を向いて生きるも同じ人生ならやはり明るく楽しい毎日を送りたいじゃないですか。

「感謝の心を持とう」私たちは進行すると障害者になります。そうすると人の手を借りないと生きていけません。そんな時当然と言うような顔をせずにいつも感謝の心を持って「ありがとう」と一言言おうじゃあないですか。そしたらお互い気持ちが良いですよね！
「上を見て歩こう・後ろを振り返るな」下ばかり見ていたら暗い気持ちになってしまう。いつも上、空を見ていたら心が明るくなる。昔の事と現在の事と比べてもしょうがない過ぎ去った事は忘れ、前を見て明日のことを考えて生きていこうじゃないですか。

まだまだ丹羽会長に教わった事はたくさんありますが代表的なものを取り上げてみました。皆さんの中にも、この中の言葉で心の中のモヤモヤが晴れたと言う人が何人かいるのじゃないかと思いますが如何でしょうか。

私は感謝の心を持とうで心を動かされ、それからは何をしてもらっても家の者でも「ありがとう」と一声言うようにしています。今では癖になっています。

あの保健所主催のつどいで出会わなかったら私の人生は今のように明るく生きていないと思います。丹羽さんと知り合っていろんな事を教えて頂き、少しは大人になったかな？病気になって家に閉じこもっていた私を外に出してくれたのは丹羽さんです。

丹羽さんは私にとって人生を変えた一人です。もっといろいろな話を聞きたかったけれど私が辞めると言った時寂しくなると言われ、早く帰って来いとよく言われていました。が、反対に丹羽さんがと遠く、帰って来られない所に行ってしまわれた。これほど寂しいことはないですよ、丹羽さん！　でもいつか私もそっちへ行きますから会員の皆さんも行きますからそっちの話たくさん貯めといて下さい。

丹羽会長ありがとう　　そしてさようなら

丹羽さんとの夢のような思い出　　臼杵市　久保田安紀子

大分から愛知県の会員に入れて頂いている久保田と申します。
丹羽会長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
丹羽さんには電話を頂いたり、また名古屋での大会ではお会いすることもできました。そして昨年の 11 月 27 日（くしくも私の 60 歳の誕生日）に、別府の中村さん宅に突然来て下さり、いろいろお話を伺ったり、カラオケまでご一緒に歌わせていただきました。

今から思うと夢のようなありがたい思い出となってしまいました。丹羽さんのおかげでこの病気のことをオープンに考えることが出来るようになりました。
会報では、まず丹羽さんの寄稿をさがして読みます。心が　ス〜ッとします。
『もう　パーキンソン病と呼ばないで』は私のバイブルです。

そして愛知県の皆様の組織力と心のレベルの高さに驚かされます。丹羽さんは中村さんと私に「大分をしっかり頼む」とおっしゃられて帰られました。
「自分が幸せだと思えば　人のために働きなさい」
と言われたお言葉が今でも耳に残っています。

自分が生きていることがやっとのような微力な私ですが、丹羽さんの志を少しでも受け継いでゆくことがせめてもの御恩返しではないかと思う近頃です。
丹羽浩介様　どうぞ天国から見守ってお導き下さい。お願いします。

合掌

丹羽さんとの思い出　　石岡市　清水　晴美

何年か前、茨城支部の総会（水戸市）にいらして頂き、愛知県は全国一の支部にしたいとおっしゃった事がついこの間のように思い出されます。
昨年は、愛知県で全国総会・大会を開催して頂き本当に全国一の総会・大会でした。丹羽さんの至れり尽くせりのお心遣いが伝わり、感謝いっぱいのあの日は忘れることの出来ない想い出となりました。

きっとお疲れが出て、ちょっと入院されたのかと思っていたのですが、こんなに早く逝かれてしまうとは、頭の中が混乱し、どうして、どうしてと繰り返すばかりでした。
丹羽さんはいつも笑顔で、その上お洒落で背広をビシッと決め、お会いするのが楽しみでした。会の事でも沢山お話しました。
今は、お釈迦様の傍で私達の会を見守って下さっていると信じて居ります。

全国パーキンソン病友の会が益々発展される事を願います。

合掌

天国の丹羽様へ

札幌市 **保科 順子**

今、誰に一番会いたいかと尋ねられたら先にそちらに行った両親や姉でもなく丹羽様にお会いしたいと即答するでしょう。
P病と診断されて三年、診断前後の苦痛はまさしく地獄でした。徐々に快復した今、小さな幸せに感謝できるようになりました。
縁あって事務局(北海道支部)を手伝うようになって一年になります。貴支部会報 34 号を拝読いたしました。
患者の立場からお話をされていました。丹羽様は 「心身の鍛錬」 又、「生きている限り今日が人生の最良の日です」 と。
その一つひとつが素直に受け入れられました。
丹羽様のお話しされた要点は蛍光ペンで線を引き、心に迷いが生じたときは、そばに置きいつも読み返しております。
その丹羽様にお会いしたい、お話しを聞きたい。来年の総会には是非出席したいと心に決めておりました。
そう思っていた矢先に入院されたことを知りました。丹羽様はご自分の原則に従って、何ひとつ振れることなく生き抜いたのですね。
死をしっかりと受け止められ最後の言葉まで残されて、貴支部の会報 34 号は私の生きる道しるべとして生涯傍にいてくれるでしょう。
感謝の気持ちをお伝えしたくペンを取りましたが、拙い文章故にご理解できない部分もあったと思います。お許し下さい。　　合掌

追伸;
総会(神戸)の交流会では、益田様ご夫妻と同じテーブルでした。丹羽様のお引き合わせと感謝いたします。

賢弟丹羽浩介さんに捧げる

福岡市 **徳永 武重**

私より早く逝ってしまいましたね。

この世では私のほうが少し早く生まれたので兄貴株だったけど、あの世では貴方が兄貴になりますね。

貴方とはいろんなことがあり、また、教えて頂いたことも沢山ありました。

死に直面してからの貴方のとられた態度は「男としてこうあるべきだ」といった見事なものでした。男は少しぐらいはやせ我慢も必要ですからね、私などは俗世間のしらがみが沢山あって貴方のような訳にはいきません。

今は貴方はきっと広い空を縦横無人に駆け巡っていることでしょう、貴方はそういった姿が本当にお似合いですよ。

もうすぐ私もそちらに参りますので、その節はよろしくお願いします。

合　掌

丹羽浩介会長の思い出

北区 **吉田 みち子**

入会して暫くたったある日、突然会長から電話がありました。若いのだから外に出るように、そして仕事を手伝ってほしい、という内容でした。話しているうちに人違いしておられるとわかりました。私は若くないし、今は事情があって出来ないからとお断りしました。会長は声が若いのでとてもそんな年には思えないとお世辞を言ってくださいました。ところが後日また同じような電話をいただいて戸惑いましたが、その時は原稿を頼まれました。結構細かいことを気にしない方だと感じました。

会長の書かれる文章は人を引っ張る力を持っていて、為になる言葉を沢山遺されました。唯、私の勉強不足で完全に理解できない所もありました。特に仏教に関してです。

私たちの目標であった会長が別の病気でなくなられるとは、思ってもみないことでした。不死身ではなかったんですね。最後まで人の為に気をつかって旅発たれた。その生き方を学んでいきたいと思います。
ご冥福をお祈りいたします。

丹羽さんの与えてくれたもの

姫路市　馬越　美鈴

丹羽さんとのお付き合いが始まったのは平成１９年度の全国総会・大会で行われたシンポジウムの中身に驚いたことに始まりました。先ず、あの名古屋大学を中心にした医師団と愛知県支部がたいへんに良い関係を築いておられること、その基盤の上に立ったこれまでになかった豊かなシンポジウムであり交流会であったことから、シンポジウムの記録を是非つくって欲しい・できたら一部欲しいと電話したことからでした。
「・・・いずれ、本部に送りますから、全国会報にのりますよ」とのことでしたが８月の会報にはのっていませんでした。「・・・のってないよ、原稿のコピーでもよいから送って・・・」「・・・愛知県支部で冊子をつくります。そのうちおくります」「私も姫路クラブの会報を担当しています。他地域の会報を参考にしたいので、ついでに残っている愛知の会報を送っていただきたいのですが・・・」という具合にだんだん厚かましさもエスカレートしましたが丹羽さんはすべて受け入れてくれました。会報のバックナンバーはすぐに、やがて冊子も３０部おくられてきました。いずれも荷造りに苦労が窺え、切手も今は貴重な珍しいものが多めにずらずら貼られ、きっと郵便局で余計なやりとりがしんどいなと思ってのことだろうと、丹羽さんを酷使していたことに心が痛みました。

シンポジウムでは、先生方の話がたいへん分かりやすかったこと、話のなかに先生方の一市民としての親しみすら感じることの出来るものであったこと、交流会でもＴシャツで全体を見回しながら気を配りながら暖かい眼差しでピアノをながしてくださっていた先生、こんな医師団と県患者会のつながりをつくってきたのは丹羽さんの哲学と指導理念と修行僧にも似た行動力にあったと思います。「・・・あの先生方と愛知支部のつながりをつくっていかれたのには相当な力を注がれたとおもいますが・・・」「・・・５年かかりましたよ。はじめは何度訪ねても会ってももらえませんでしたよ。・・・」
また、丹羽さんは弱い者には徹底してやさしかった。よく気のつく人だった。それは、会報にもみられるように実に率直な患者・家族の声をよく拾っておられること、県支部の会員の会員に対して家庭訪問を行い、すでに１／２完了など地方組織として最もなすべきことをこなしておられることにも見られます。

その丹羽さんと言葉を交し、お互いの考え・意見を交わしたのは数ヶ月、その間、見舞いをいれて顔を見たのは二度だけ。（以前、ソウル大会に於いて壇上で意見発表をされる姿を遠くからみたときは、ほんとにこの人患者なんかいな！とおもっただけ。また、メルボルン大会では関空でお会いした。万事遺漏の多い介護者私より先に主人にはいろいろ手を貸していただいた。帰り着いて関空で向かいのホテルに向かう丹羽さんの後姿に最敬礼をしたものだった。）

昭和３３年以来、社会人としてほぼおなじ時期を歩んだものとして、『問いかけ』たことについては、すべてボールはかえってきた。やりとりのなかで丹羽さんは自らの思想形成についても話された。話の中で、メルボルンのあと主人宛のハガキの中に、とりふだの様式で７・７句がしたためられ、詠み人に親拙坊主とあったのを思い出した。ああ、あの親は親鸞の親で拙は鈴木大拙の拙かと思い至った。（但し、これは本人には確認していない。私の勝手な思い込みかも）患者会の活動についても、あしたへの見通しとともに、やがて来るあさってまで考えている稀有なリーダーであったと思う。それは、『自らに意思と行動で人としての尊厳を追い求める積極さ』を持った患者・家族であれ！と説き『ＧＤＰ７％を超える国民総医療費の使途に目を向けることなくして、福祉全体の論議に参加もなりません。これでは巨視的な面からの仕合せは追求できないとも思います。高齢化が進む中で、難病患者の増大は国民一人ひとりに己が成せることを成せ、と問いかけているかのようです。患者会の役割の一つ、それは「生きる希望と勇気」の啓発です。』とたえず社会全体のなかでの活動の重要性と、やがて《たたかい》がひと段落着いたときの人としての生き方を考え、自らも厳しく自分を追いたてていた丹羽さん。

たった数ヶ月・数回電話でのやりとりだったが強烈なインパクトを与えてくれた。丹羽さんが倒れ、主人が倒れ、主人が逝き、丹羽さんも逝った。無視されようが、嘲られようがもくもくと己の信じるところを歩みつづけた夫。二人の死は大きな喪失ではあるが、私には喪失感より二人の残してくれた・与えてくれたインパクトのほうが大きすぎた。それ以後、気がつくと丹羽さんに相談している自分に気づく。最後には「目の前をよく見よ、自分にできることを見つけ、順序をかんがえて行え」と師は答えてくれる。

丹羽さんとの出会い そして別れ　　緑区　山尾 佐知子

丹羽さんとの出会いは、一宮で医療講演会がある事を新聞で見て、主人が連れて行ってくれたのが始まりです。同じ病気の人との出会い、あの時のホッとした気持ちと喜びは忘れません。その時の丹羽さんは、演壇の上でスキップをしたり、サッサッと歩いて見たりして、自分の元気を皆さんにあげたい、見習ってほしいと、とても前向きなお話や行動を見て、感動した事が想い出されます。
早速入会させて頂き、少しずつ様子を見ながらついて行こうと思いました。今から思うと、なぜそんなに忙しく時間がいつも足りない位、スケジュールがいっぱいで行動していらっしゃいました。とてもついて行けるものではありません。

丹羽さんがいつも言っておられた事は、『山尾さん、私は会員さんの事思うから少しでもお役に立って喜んで下さったら、会員さんの嬉しい笑顔が見たいから努力させて頂いている。笑顔に出会うとどんな大変な事も辛いと思わないからありがたいことやなぁ。これ自分の事やったら、何も出来ないしやらんでもいいから。』
会員さんと話をされる時のあの優しい笑顔は百万ドルの笑顔ですね。私は百万ドルの笑顔をそっと心の中にしまっておきます。

昨年の全国大会愛知県支部は、お陰様で大成功に終わらせて頂きました。先生方始め、会に携わった大勢の人々のご協力、そして丹羽さんの真心が会員一人一人に通じて、あの穏やかな素晴らしい饗宴の運びとなりました。
良き想い出としていつまでも心に残る１ページでした。もう少しゆっくりと歩いて頂きたかったですね。早いお別れになりました。でも不思議に淋しさや悲しみを感じません。いつも身近にいらっしゃる感じです。最後のお辛い姿にお会いしてないからでしょうか。どこまでもご立派な丹羽さんでした。

気持ちの持ち方や、楽しい想い出を有難うございました。
丹羽さんにお会いできました事、心から感謝致します。
ご冥福をお祈り申し上げます。

思い出　　緑区　池田冨美子

会長丹羽浩介様が旅立たれてから、早や 100 日を迎えようとしています。　けれども私には未だに実感が湧いてきません。こんなにも早いお別れになるとは誰もが想像だにしなかった事ですが、「もうやり残した事は何もない」と言い切られ、「これでようやくお釈迦様にお会い出来る」と喜んでおられたとお聞きして、気持ちが救われました。ご自分の信念の下に愛知県支部を引っ張って来られました。一時、ポッカリと大きな穴が開いたような状態にもなりましたが、すぐに立ち直り、計画されていたイベントは全て大盛況のうちに進んでいます。会長さんも天国でご満足していらっしゃる事と思います。ご冥福を心よりお祈り申し上げ、思い出を書かせて頂きます。

ある日の事、主人に代わって受け取った受話器の向こうから、丹羽会長さんのいつもの笑顔が見えるような声が聞こえてきました。「会報、三度も読んだよ、頑張っているね！」の言葉に、解りにくい投稿文を理解しようと読み返して下さった様子が窺え、頭が下がる思いがしました。丹羽会長さんのお話はいつもユーモアに溢れ、的確に的を得ていて解り易く、良い指針となり励みになっています。

中でも『もうパーキンソン病と呼ばないで』の中に書かれている；
　＊動作がのろいと言われた時には、それが一体どうしたと言うのですか、
　　私は一生懸命なのです、と思って元気を出しましょう。
　＊食事が遅くご飯粒を床に落とす、と指摘されたときには、いけませんか、
　　私は美味しく食べているのですと、必ず反論しましょう。
等々胸を張ってプラス思考で生きましょうとの教えは、早速、家の中で（内弁慶なので）水戸黄門様の印籠よろしく振りかざして小言を撥ね返す原動力となっています。
また私の曲がった背中や腰を心配されて、「今ならまだ間に合うから」と本気で治そうとして下さいました。あの時、もっと真剣に取り組んでいたら・・・と悔やんでも悔やみきれませんが、今からでも教えを実践してリハビリに励み、その成果を天国の丹羽会長さんに報告したいと思っています。

1 月 19 日の編集会議の時、越澤事務長さんから、お見舞いは控えたほうが良いけど手紙なら大丈夫と聞いてお手紙を書き、ポストに投函する為に封をしようとしたら、主人が「自分も書くからちょっと待って」と書いたものを一緒に入れて投函しました。するとすぐにお返事が届きました。おはがきの裏に、自筆で、「　池田さんご夫妻様　お二人の心遣いに慈愛を感じます　心からありがとうございます　丹羽浩介 1/20 」と書かれて

あり、簡潔な言葉の中にしっかり込められたお心を感じ、感激しました。
先の電話の時、「今迄頂いたどのお手紙よりも感動しました。色紙と一緒に大切にします。」とお伝えしますと、「ありがとう」と逆にお礼を言われました。

また、「カラオケで三百六十五歩のマーチを歌っている時の嬉しそうな顔が忘れられない、天国まで持って行くよ！　もう一度歌ってみてくれないか」と言われて、酷い音痴であることも忘れ電話口で歌わせて頂きました。すると「歌詞がすぐ出てくると云う事はいつも歌っているんだね！」と、体調が悪い中、さぞお聴き辛かったと思われるのにフォローまでして下さいました。

丹羽会長さんと私の間を結ぶ「三百六十五歩のマーチ」のいきさつは、一昨年のクリスマスイブの夜、他の役員さんご夫妻とともにカラオケに招かれた事にあります。
カラオケバーでは、最初に皆で起立して『聖夜』を合唱し、久しぶりに胸がキューンとして胸の高まりを感じました。
ところがその後がいけません。マスターから「歌う順番を決めますから、曲名とお名前を書いて下さい」と紙を渡されたのです。
「皆さんの歌を聴かせて貰おう」とのんびり構えていた私は、すっかりあわてて頭の中が真っ白になりました。人前で歌える曲など思い出せる筈もなく、唯一思い浮かんだ『三百六十五歩のマーチ』とミミズの這ったような字で書きました。
皆さん本当に歌がお好きで、プロ顔負けの歌唱力に、身振り、手振り、それに小道具まで加わって心から楽しんでおられ、肝心の私は益々自信が無くなっていきます。

「この盛り上がっている雰囲気が白けてしまったらどうしょう」とオロオロしている間に早くも順番が来て、無我夢中で歌い始めました。
すると皆さんが手拍子で応援して下さり、引き吊っていたであろう私の顔もお陰様でほころび、足踏みまで混じえて歌い終える事が出来ました。すっかりのぼせ上っていた私を、Yさんが心配されて側で椅子にかけて一緒に歌って下さり、すっかり安心して私まで楽しく歌えたことが生涯の思い出になりました。

このようなトンチンカンな私に自信を持たせようと折に触れ、「あの時はホント嬉しそうに歌っていたよ」とニコニコしながら声を掛けて下さいます。　　ご自分の事より常に会員一人ひとりの幸せを願って走り回っておられた丹羽会長様；

どうぞ天国でごゆっくりなさって下さい。そして友の会のことを見守って下さい

合掌

丹羽さんは太陽でし

知立市　池田　綾子

先日散歩をしていると、真っ赤な太陽が煌煌と燃えながら嶺線に入るのをみた。
まるで丹羽会長が燃えながら心を残して逝かれたように思えました。そうです、私たちにとって、会長は太陽でした。大空には夕焼けが私共に手をさしのべるように見えました。
友の会の為にご自分の体も厭わず、皆の為に情熱的に短い人生を駆け抜けていった方のようです。

あれは私の体調が悪く悩んでいた頃、丹羽会長さんの本を読んで心を打たれ、思わず電話をしてしまいました。つい長電話になってしまい，増々感動をしてお手紙を差し上げたら、拙宅までわざわざお出で下さいましたので恐縮をしてしまいました。

気持ちの持ちようで心の悩みは消えると悟り、パーキンソン病友の会の人になりました。
あちこちの講演会に出席して、大分色々なことが分かり立派なお友達も沢山出来ました・

A＝明るくて　T＝楽しい　M＝毎日を

モットーに、会員の皆様は明るく前向きです。 丹羽会長さんのことが頭から離れません。
きっといつも、千の風になって私共のところを回っておられる事でしょう。

合掌

池田綾子さんの原稿末尾に、こう記されていました；

“ 手がうまく動きませんので鉛筆書きにしました ”

お聞きしますと、手に力が入らないのでボールペンでは書けないとのことでした。
でも、そんなことを微塵も感じさせない達筆で、書かれていました。（編集・池田幸夫）

丹羽浩介会長との思い出　　安城市　林　三紀子

丹羽様のご冥福をお祈り申し上げます。
私は発病と同時に友の会に入会して２年目です。まだまだ不束者で、表題とは趣旨が外れた原稿になりましたことをお詫びすると共に、改めて丹羽様に御礼の言葉に変えさせていただきます。

約２年前、パーキンソン病と診断され、薬調節の為の入院でしたが薬が合わず、１ヵ月半の入院で鬱状態に陥り、要介護２の介護を受ける事に成りました。
ケアーマネジャーの方に友の会を教えて頂き、早速会員さんに相談しましたら、丹羽様より直々のお電話を頂き、セカンドオピニオンの紹介を受けました。
ご多忙の中、一日中私に付き合って下さり、薬の飲み方、姿勢の正し方等を克明にご指導して頂きました。詳細は昨年投稿しておりますので控えさせて頂きます。但し、薬は今もその時と変わらず、不安に寄る固定観念の強さを恥じています。

丹羽さまは「先ずは人様」の為にと功徳を積み、友の会に貢献され、発症２３年のパーキンソン病患者とは到底思えず、ガンを患いながらも辛い期間も短く、最後は「お釈迦様にお会い出来る」と笑顔で逝かれたとの奥様のご手記（３９号掲載）を読ませて頂き、感極まる思いです。逝去された事は残念ですが、『わたしの幸福論』を残していただきました。今後も辛い時は拝読させて頂きます。

会報３９号の新会長の「会長就任にあたり」を読んで、ユニークな丹羽様の知られざる一面が窺え、神戸で挨拶を交わした新会長のお顔も浮かび、改めて丹羽様と新会長とのマンションでの談話を楽しく再読しました。
越澤さんを始め、皆さんのお手配のお陰で神戸に行くことが出来ましたこと、深く感謝申し上げます。

ご自分には厳しく、他人には優しく

中区　**光川明男**　内　**京估**

丹羽会長様のご訃報を心よりお悔やみ申しあげます。
頑張られて、きっと快復なさると信じて居りました時に・・・、本当に残念でございます。

パーキンソン病友の会の開催に数回出席させて頂きました折、壇上で飛び回る元気さを披露して下さいましたが、退場の折受付で伏して居られるお姿を拝見致しまして、お疲れなのだと悲しく思ったことがございました。

ご自分には厳しく、他人には優しく暖かいご立派な方でした。
パーキンソン病の人々に勇気を下さってありがとうございました。今後、会の発展をお祈り致します。　　かしこ

サクラと共に　　美和町　伊藤フサ子

平成２０年度　愛知県支部総会の会場準備の時、山尾さんがピンクのお花を花瓶に活けておられましたので、「ステキですね！」と声をおかけしました。「丹羽会長　ピンクがお好きだったからね・・・」と、おっしゃいました。横の会長のお写真もピンクのＹシャッツでした。笑顔までピンクに見えました。そう、突然我が家に来られた時もピンクのＹシャッツでした。初めて事務所におじゃました時も、ピンクのポロシャッツでした。

丹羽さんは私に今まで知らなかった世界を教えて下さいました。その頃、私はパーキンソン病と言われてから４年目でした。少しずつ進む病状に落ち込んでいました。そんな時、「もう　パーキンソン病と呼ばないで」に出会ったのです。１９年も元気でいられる病なのだと、本を読んで気持ちを入れ替えました。この本で多くの会員の方が救われたと思います。大切に残します。ありがとうございました。

あれから５年になります。丹羽さんのあの笑顔の裏には病の苦しさもあったと思います。一人一人病状は違っても、辛さは同じだと思います。愛知県友の会を発展させて下さいまして有難うございました。パーキンソン病とは違う病で逝かれましたが、パーキンソン病の辛さからは開放されたでしょうか？　ピンクのサクラの花が散りゆく後に続く様に逝ってしまいました。これから私達、この病の苦しさ、辛さに負けない様に　ＡＴＭで頑張りましょう。丹羽さん安らかにお眠り下さい。

丹羽会長を偲んで

須
清洲市　三宅　和男

丹羽さんが4月9日に名大病院でご逝去された旨の通知を受けました。25年間に亘り病魔と闘いながら、友の会でパーキンソン病克服のため、超人的な活動で、我々会員をご指導・ご鞭撻されました。深甚の謝意を表するとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。

丹羽さんとの出会いは平成18年10月に電話で友の会に入会申出をした時でした。その時丹羽さんは本年の友の会の行事は終わったところだが、次の役員会後に役員懇談会があるので、そこに行けば、友の会のことがよく解るからとのお招きを頂いたことです。
通常では、見も知らない人をいきなり会合に入れることは考えられないことですが、丹羽さんは柔軟な態度を持っておられ、初めての人にもこのような気配りをされる方でした。
私は12月初旬に友の会事務所へ出かけて丹羽さんはじめ役員の皆さんにお目にかかり、友の会について大変多くの事をご教授頂きました。それで、私の闘病に関する不安感は減少しました。

その後も、平成19年10月26日・27日の一泊旅行の際、私は平山先生より「適度なリハビリとは、このような旅行など行事に積極参加すること」とのアドバイスを受けました。
その場に同席されていた丹羽さんは翌朝私の部屋へ来られ、丹羽さんが会員となっておられる社団法人実践倫理宏正会の集いが11月25日(日)に名古屋国際会議場で行われるが、当日多数の人手の動員を要請されているので、丹羽さんは私に出席してもらえないかとの依頼がありました。

丹羽さんの名前が記載されている入場券を持って、時間までに会議場へ行ってもらえばよいとのことでした。これは、私のリハビリのための依頼と思いました。丹羽さんが平山先生のお言葉を直ちに実行される行動力は素晴しいと思いました。私は出席をお受けし、当日会議場に出かけましたが丹羽さんの姿を会議場で見かけませんでした。会議場は大勢の人でしたので、丹羽さんを探すことが出来ずに、帰宅し翌日丹羽さん宅に電話しましたが留守でした。今から思えば、丹羽さんの病状は相当に悪かったと思います。病が可なり進行していても、強い精神力と社団法人実践倫理宏正会の朝起き会(朝5時に集会所で1時間心身を鍛錬する集い)などで鍛えた体力で頑張られたと思います。
私は丹羽さんの意志をついで、病を克服すべく、努めます。

「前会長　丹羽浩介氏　を悼んで」

蒲郡市　佐々木義祐

まさに巨星墜つ！
丹羽会長のご逝去を耳にした時、思わず浮かんだのがこの言葉であります。我々「愛知県パーキンソン病友の会」の全員にとって丹羽前会長の存在は真に偉大であり、唯一無二の存在でありました。

思えば、医療費自己負担の軽減の継続・促進についても、署名運動等は無論、個々の問題についてまで自己の時間を惜しまず活動されました。本当に惜しい方を亡くしました。心から哀悼の意を表すところであります。しかし、只々悲しんでばかりはいられません。我々を痛めつけているこのパーキンソン病はまだまだ未解明の部分が多い病気で、結局は難病の地位から外れずにいる訳であります。

ある日の事であります。
私の家へ丹羽会長と神野久美子顧問（東海市市会議員）が訪ねて来られ、家内と共に四人でゆっくり話しをする機会を得ました。まず、驚いたのが、会長と私のこの病気に関する思想と申しましょうか、考え方、対応の仕方がそっくりで、二人は人生観をはじめ、何事に関しても極めて良く似ており、全て前向き、積極的でありました。（但し、姿かたち、人格、能力は会長と私では月とスッポン程離れております。）

我々患者は医学・医薬（薬）に関してはあくまでもズブの素人であります。それ故、それ等は専門家にお任せするとして、我々は患者という立場で何をすべきか？逆に何をすべきでないか？二人の話は延々と続いた訳でありますが、何しろ前述の通り、基本的に全てに渉って未来志向の前向きな者同士でありましたので、その話は止まるところが無かったことを強く記憶しております。その話の内容は又別の機会に譲るとしまして、今の所は丹羽前会長の望まれた病気の根絶、治療の進歩、病気を寄せつけない心の強さを天に在します会長にご報告できるよう明るく生きていく事を誓うこととしましょう。

ここに本当に惜しい方の死を悼み衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

２００８年６月３０日

追悼の言葉

蟹江町　　金子幸枝

五月十日　２０年度の友の会の総会が、いつもの黒川でおこなわれました。
丹羽会長のご容態を案じながらの出席でした。会場に入ると、いつもの笑顔を浮かべて「あれは夢だったよ」と澄まして座っていらっしゃるような気がして、これは多分心に画いた私の強い願望であったようです。現実は最も厳しいものでした。すでに四月九日天国への旅立ちをされていました。私の涙腺からは水滴が流れ、しばらく茫然としていました。

丹羽会長との出会いは、三年前友人を介しての事で、それ以来、何回か電話を通じてのご指導をうけ、最近やっとパーキンソン病を自分の中に受容し共存していこうと云う気持ちを持つ事ができ、大変うれしく思っておりました。

「なぜ、このような悲しい事がおこるのでしょう」
会長は長い間、一生懸命同病の人達のために全力を捧げられ、私たちに「希望と勇気」を与えて下さいました。昨年の全国大会は大成功でしたね。有難うございました。本当にありがとう、今この言葉以外書く事ができません。

お疲れになりましたでしょう。苦しかったでしょう。キラキラ光る天国の空で、ゆっくりゆっくりお休み下さい。そして、残された私達をいつまでも見守っていて下さい。会長のあのすばらしい笑顔は、一生忘れはいたしません。

前会長　丹羽浩介氏にご冥福をお祈りします

千種区　　前田正史

私がパーキンソン病友の会に入会してから、大道新会長を含めて四人の会長が代わっている。三番目が丹羽氏です。こんなに早く死が訪れるとは、今度は長期政権と思っておりました。丹羽氏は愛知県パーキンソン病友の会を全国一に育てあげ、機関誌を定期発行と成功例は数えられない程の業績を残し、会員の代表として天井びととなりました。

合掌

丹羽会長を偲んで

北区　風岡　初代

私にとって丹羽会長は兄とも言える恩師です。私が勝手に思い込んでいるだけと思いますが。友の会は平成１８年４月の入会です。入会希望のファクスを入れておいたので夜電話がかかってきました。「今から発声練習をします。」とおっしゃって「アイウエオ、カキクケコ・・・」と数回に渡って指導をいただきました。また、突然「人間は死んだらどこへ行くと考えているか」と質問され「ええっ」と思いましたが「宇宙にかえります」と答えましたら、何もおっしゃらずに入会が許されました。

平成１９年９月に事務局へ電話しましたら会長が出られ「ごちゃごちゃ言ってないで、今からすぐこちらにいらっしゃい」との一言が私の気持ちを動かしました。ここ８年位一人で外出したことはありませんでした。懇切丁寧に家からの乗り物の説明をして下さり、お蔭様で一人で公共の交通機関を利用して事務局まで行けました。私にとって初めての一人外出で自信がつきました。「倒れた私がいれば誰か助けてくださるだろう」と他力見当での外出でした。午後３時頃までいろいろお話を聞かせて頂きました。その中で「あなたは私の妹に背格好から性格まで良く似ている」と言われました。その後がいけません。「私は世間知らずで自分のことだけしか考えていない」と痛いところを指摘されて、その通りだと反論ができませんでした。続いて「ずいぶん暗い顔をしているね。こへ半年ぐらい通えば、だんだん明るくなるよ」と言って励まして下さいました。一人でうつうつとしていた時が長かったのですが丹羽会長のお誘いがなかったら今でも決断しかねていると考えます。

ＡＴＭは心の引き出しにしまっておいて時々引き出しては念じたいと思います。会長が入院中、夕方７時ごろ男の方から家に電話がかかりました。どなたか分かりませんので「いたずら電話はやめて下さい」と言いました。向こうではどうも「丹羽です」と言っておられるようだと思い「会長さん、退院されたんですか」とお聞きしましたら「やっと分かってもらえた。本人ですよ」の言葉に「失礼しました」と電話をおえました。もっと早く会長だと分かれば色々、他のことをお聞きできたのに残念だと思う次第です。自分を精一杯生きられた会長には、見習うことは多々あります。心からのご冥福をお祈りいたします。

あまりにも早すぎました

春日井市　**益田 緑**

懇談会が終わって帰ろうとした時、「よかったら　僕と少しお話をして行きませんか。」と声をかけられました。おばさんになってから男性から声をかけられるなんて何の勧誘？と硬くなって、振り向くと丹羽さんが、にこにこと笑ってみえました。そして多分その日初めて参加した人ばかりだったのだろうと思うのですが、５、６人でお話をしました。私は人見知りが強いので、聞いていただけのような気がします。

それからしばらくして本を出版されたということで送って頂いたので、どう言えばお礼の気持を伝えられるかしらと思いつつ講演会に行きました。少し遅れて入ったので、その日の丹羽さんのお話は聞きそこなったのですが、お話を終えて降りてみえるところに、今ならお礼が言えると思って近づき、私はあの本の「動作がのろいと言われた時にはそれが一体どうしたというのです。私は一生懸命なのです。と思って元気を出しましょう。前かがみで歩いていると指摘された時には、お金を拾っているのです。と切り替えしましょう。」のところが気に入りました。これからは私もあれでいこうと思います。と早口で感想を伝えました。そのあと大勢のフアンに囲まれて、本にサインをしておられたので、あんなに有名な人に幼稚な感想を言って失礼だったかしらと恥ずかしくなりました。

その後ことあるごとにその時の事を言われてあの時は嬉しかったと言ってくださったのが、嬉しいけど恥ずかしい思い出となりました。又なかなか自分の殻から出られない私をひっぱりだそうとしてくださったのだと思います。東京での交流会の時には、出会う人ごとに紹介して下さり、なかには怪訝そうな顔をされる方もありました。そして「なぜこんな事をするのか分かりますか。」と聞かれ、大勢の方たちとお話できるようにして下さっているのだと思います。と答えたのですが、それからは、電話を頂くと「みどりの丘の赤い屋根、とんがり帽子の時計台」と歌ったり、面白い事を言って口の重い私がしゃべるようにと気を配ったり、こんこんと病院のことや薬のことをお話して下さり「病気のことではどんなえらい先生でも紹介してあげますよ。」とまで言って頂いたのにはっきり返事をしないので、「益田さんは頑固だから」と言われてしまいました。

今ごろになってあれほど親身に心配して頂いたのに、こんなに早くお別れする時がくるのだったらもっとなんでもお話したらよかったと後悔する有様です。そしていよいよ悪くなられた頃「これでお別れです」といって電話を頂いたのですが、えっと言ったままなにも応える事ができなかったのです。それが最後となってしまいました。
あまりにもはやすぎました。

会長、有難うございました！

安城市　**篤永章子**

会長のご逝去を心からお悔やみ申しあげ、ご冥福をお祈り申しあげます。
会長のご逝去に心が痛みました。入院中のお見舞いが一度しか出来ず、しかも突然押しかけるという非礼にも拘わらず、逆に励ましのお手紙まで頂いて本当に有難うございました。改めて気遣いの無さにお詫び申します、お許し下さいませ。
会長は病気を克服され、パーキンソン病患者としての模範を示されて会員に与えた元気はいかばかりか計りしれません。
会長来宅の折、「友の会の仲間と一緒に愉しむのが一番だから、一度旅行等に参加するといいですよ」と勧められました。私の病状もすでに悪化し、閉じこもりの生活を案じられる会長のお気遣いに心が温まりました。同じ病気、同じ苦しみを経験し合えた者同士だからこそ分かり合える心の通いに、大変勇気付けられました。長患いの私は病気の先輩ですが、会長は人生の大先輩、会長の人生は今後の私の人生の良き目標と致します。
会長有難うございました。どうぞ安らかにお休み下さい。

心の談話

祈りも届かず、奇跡も起こらず、会長は旅立たれました。会長の元気なお姿が、眼に焼きついていて離れません。教えを実行出来ない私の意志の弱さ、優柔不断を今更悔やんでも元気な会長は戻りません。
口幅ったい言い方ですが、会長との思い出話を少し語らせて頂けますか・・・
とにかく、威張らない会長でした。私の横柄な言動にも少しも気にされることも無く、気兼ねすることも無く、会長とお話が出来ました。お話することで私の不安やストレスも解消され、私にとっては“まさに気が合って、意気投合する”といった雰囲気でした。
或る日のこと・・・皆さんご存知の『もうパーキンソン病と呼ばないで』の出版の際、著者の紹介コメントを頼まれましたが、私は出来ませんとお断りしました。お断りしたものの後から気になってなりません。数日後に出版された本が送られてきました。それには私の心配をよそに順天堂大学神経内科・水野教授が著者紹介をされておられ、会長の当意即妙が感じられて本当にホッと安心しました。それはそれでいいのですが、更に数日後１０冊の本が送られてきました。別に注文した訳でも無く、不審に思って会長に問い合わせますと、「お～ッ本送ったよ～。勝手に送って悪いな～」と、気遣って苦笑しながら平謝りのご様子が伺えました。
今夜は、母が会長を偲んで「丹羽さんが好きだった」を連発しています。もっと優しく接すれば良かったと後悔の念にかられています。私はここに書いたことを仏壇に座って会長と心の交流を果たして、もやもやの心が晴れました。

会長の励ましが心に残ります　　安城市　篤永章子

花のうわさに心も浮き立つ今日このごろ・・・
会長来宅の折、私の長患いを大変心配して頂きました。一人で孤独にならないよう気遣われ、一度友の会の旅行へ参加して楽しんでくださいと勧められました。
極めつけのお言葉が、

あなたは決して一人ではありませんよ！
悲しいとき、辛いときもあるでしょうが絶対弱気になってはいけません。
病気に負けてはなりません、仲間がいます、
大勢の仲間が貴方同様、病気と戦っています！

仲間とは良いものです、患者の苦しみが分かる一番の友と思ってください

と、会長の力強い励ましに心打たれました。
今の弱気な私を見透かされたかのような会長の励ましに大変勇気を頂き、仲間に支えられる喜びに感動しました。その後、時間に余裕があるとお聞きし、ホームカラオケを会長と母と私で楽しみました。会長は石原裕次郎の『北の旅人』を歌われました。カラオケは良いものです。気持ちが晴れると言われて喜ばれた後、２～３曲歌われ、私たち親子は一生の思い出になる楽しい時間を過ごさせて頂きました。

父親譲りで歌が好きです。でも、人前で歌う勇気は無く、隠れてハミング程度の歌でした。ある日健康ランドで初めてカラオケに挑戦しました。一曲歌い終わったら、「お姉さん、上手だね～」と、妹のお世辞に乗せられ二曲目に挑みました。これがカラオケの始まりでした。外出の難しい最近は、ホームカラオケが私の一番の楽しみです。楽しみですが、病気の進行で好きな歌も声が上手に出なくなり歌う楽しみも半減して、今では楽しめる雰囲気のカラオケには程遠いです。
声が出ないと実際苦痛ですが、考え方を変えました。要するにリハビリだと思い、発声練習として精を出すのが今日この頃のカラオケです。
歌う度に思い出させる、カラオケが大好きで優しい丹羽会長の笑顔は、一生忘れることは無いでしょう。

故丹羽会長との思い出と語録と遺志

緑区　池田　幸夫

私の家内がパーキンソン病の患者です。緑保健所へ出入りしている時に、越澤御夫妻、木村御夫妻の知遇を得て平成１７年１０月に友の会に入会。平成18年６月に定例会に出席し、丹羽会長に初めてお会いしました。その時に最初に受けた質問が、
「ＡＴＭとは何ぞや？」で、
「勿論知っています。現金自動両替機のことでしょう」
この程度の私でしたが、この時初めて　ＡＴＭ　の意味を知りました。負の思考ではいくら薬を飲んでも病気は決して良くならない。闘病の基本がまさに正の思考にあり、

ＡＴＭ　＝　明るく　楽しい　毎日を

更に感銘を受けたのが「**皆を助ける**」という故丹羽会長の信念でした。　その一端である会報も
“　会員同士が語り合うことで、お互いに助け合い元気を得る　”
ことが創刊の精神であり、目的だとのことです。

その信念を達成するために、会長のとられた行動が；
“全ての会員を訪ね、悩み、楽しみを語りともに元気を得る”
という行動でした。今回の入院時点で約２００名程の会員を尋ねられ、遠くは大分県まで出向いておられます。留守宅もあって実質１７０名程の会員に会われた由。詳細は３７号の「皆さん、ありがとう」に述べておられますが、生活の全てを友の会の活動に捧げられ、その信念の凄まじさと一途さにますます尊敬するようになりました。

特筆すべきは、平成１９年に名古屋で開催されたパーキンソン病友の会全国大会です。その準備活動を年初から始められ、その骨格が見えた４月頃に私もその一翼を担がせて頂けた事は、生涯の財産になりました。大会初日夜の、３００人を数える「交流会」は会員の特殊事情を配慮した料理の個人別配膳と、参加者全員が主役という思想から個人優先を排したプログラムで、最高の盛り上がりをみせて終了後も熱気冷めやらぬ交流会でした。明くる日の「医療シンポジュウム」を含めて見事な企画に、故丹羽会長への賞賛は止まる事はありませんでした。

しかし大会の終了した６月２４日の深夜、故丹羽会長は突然入院されたのです。
その知らせを聞いた我々は、大会の心労から出た疲れだと思い込み、事実４日後に退院された時は“良かった、良かった”と喜んだものです。今にしてみれば、病魔はこの時に牙を剥き始めたのかも知れません。日頃の行動から私達は丹羽会長とは“不死身だ、不死鳥だ、元気なのだ“と思い込んでいました。都合のいい思い込みであったことに、呵責の念を禁じ得ませんし、今でも悔やまれてなりません。

しばらくは快調（我々が思うだけかも）な時が流れ、師走の初めに電話があり、７日の坂文種報徳会病院山本纉子院長との対談の筆記（３６号掲載）を頼まれました。益田利彦さんとその任にあたりましたが、いつもの快活、辛らつな発言に健康問題など微塵も感じませんでした。
しかし３日後の１２月１０日に突然入院されたのです。それでも検査入院とばかり思っていました。検査の結果副腎癌とわかり、会に衝撃が走りました。でも２７日に会報の件で電話を頂いた時は“病気は俺が必ず治す！　１月５日頃には退院できるかな”との元気なお言葉でした。

平成２０年に入り、２月２４日（日）朝に会長から電話が入り　“今日は清清しい気持ちだ。今の心境を話したいので口述筆記をしてくれないか”と言われます。急遽、益田利彦さんと名大病院で待ち合わせて病室に伺いました。このときの内容は会報３７号に掲載されていますので詳細は省きますが、丹羽理論・公式がこの時も冴えていて；

食事は３分の１の量でも、３倍の時間を掛けて食べれば　１　になる

会話の中に、丹羽理論が突然飛び込んで来て一瞬とまどいますが、そうして人を煙に巻く茶目っ気なところが多々あり、お陰で会話が中弛みすることなく進んでいく。さすがは日本碍子の労組委員長をされておられただけあって、話の進め方が実に軽妙です。
それと、入院中に会報がくしゃくしゃになるまでベッドの上で読まれたとの事をお聞きしました。いかなる時でも、会に対する思いやりと情熱を感じて嬉しくなり、逆に私達が元気を頂きました。

２月２９日にホスピスに転院されました。名大病院での状況は、「皆さん、ありがとう」や越澤事務長の「時の流れ、入院記」に詳細は述べられていますが、祖父江教授を始めとする名大医師陣総力を挙げての対処に、本当に何度も何度も感謝されておられました。ご自身の運命を達観された境地だったのでしょうか。しかし、これを境に病状は急速に歩を進めます。
４月９日　午前５時２０分に逝かれたとの知らせが遂に来ました。２～３日前から予想されていたとは申せ、体から力が抜けていくのが分かりました。

暫くは虚脱状態で、何をしていいのか全く分かりません。考えているようで考えていない。何かしなければと思いながらも、何も手がつかない。ただ、ボ～ッとしているだけ。今迄は相談事を持ちかけると必ず何等かの解答を頂けたのに、今は何も返ってこない。５月度例会で集まりましたが、寂しさで一様に皆しょんぼりとして元気が無い。

私ごときがおこがましい事ですが、全員で故丹羽会長の遺志を継ぎ、友の会の皆様を励まし元気づける事が、友の会に託された最大の遺志だとの思いに至りました。個人個人の力ではとても故丹羽会長に及ぶべくもありませんが、皆で力を合わせ、遺志を絶やさぬように継承することが恩に報いる事だと思います。　　合掌

私たちに希望を下さり有難うございました。ご冥福をお祈り致します。

１２０日間

緑区　**越澤　　博**

丹羽浩介さんが検査入院されて、亡くなられるまで１２０日間でした。２００７年１２月１０日、名古屋大学医学部付属病院に入院され、間もなく、手の施しようがないほど副腎ガンが進んでいることがわかりました。丹羽さんは前にパーキンソン病と診断された時も、今回も「あゝ、そうですか」と受け入れられたそうです。２００万人に１人という珍しい病状とか・・・嘗て加藤基雄さんが１００万人に１人という難病で亡くなられていますが、俺は２００万人に１人だぞ、と苦笑されていました。

入院生活は大きく分けて三段階になります。入院から年末年始にかけての検査の日々に加えて放射線治療と一番大変な苦痛の時期、その後ホスピスに移るまでの比較的安定した時期、最後のホスピスでの暮らしとなります。

「あゝ、そうですか」と受け入れたと言っても死と直面したわけですから大変なことです・・・。「やるだけのことはやった、思い残すことはない」、「少し走りすぎたかな」。友の会会員の約７割を家庭訪問（東海市の神野久美子さんが運転）し、いろいろと相談にのり、明るく・楽しい・毎日を、モットーに励まし、明日に希望をもたせたことには心から感動しました。丹羽さん自身も皆さんに会うことで元気の素をいただいていたようです。

入院の日に文芸春秋新年号が発売になり、石原慎太郎都知事と百歳の松原泰道（臨済宗龍源寺前住職）の対談「恐れるな、ただ死ねばよい」が載っていました。ベッドの枕元に雑誌を見つけた時、もう丹羽さんは読まれたのだなあと思いました。入院の前に丹羽さんが纏められた「『臨済録』のなかから」とこの記事の内容は合致しております。数回に分けて会報に載せましたが今回纏めて再録しましたのでご一読ください。

背骨に転移したガンにより、背骨がもろくなっているのでコルセットを付けることになりました。このことが丹羽さんにはショックでした。急に病人らしくなり、面会謝絶にしてくれと言われました。入院当初から大勢の方がお見舞いに来られて、皆さんが「見舞いに来たのに返って励まされた」と帰られていましたが、病状が進み股関節にも肝臓にも転移したガンがひどくなり、痛みも大変でした。暮の放射線治療のころが一番大変でした。食欲も無く、痩せ細っていました。ただ東海市の神野久美子さん（看護師・市会議員）の明るさが救いでした。ストレッチャーに乗せて治療室まで神野さんが行かれたそうです。

放射線治療が一段落してから、食欲が出てきて大好きな鰻を毎日のように食べ「やっぱり食べなくちゃぁだめだな」と。比較的安定した日々が続きました。昨年の全国総会・大会を振り返り、やるだけのことはやったと満足されていました。丹羽さん生涯の集大成の行事でした。また、この頃です。多くの方に電話で今生のお別れをしていたようです。電話を受けた方は返事に困って、ただただ快復を祈るばかりでした。名大での治療は一段落し、丹羽さんはホスピス行きを選択されました。

ホスピスって今まで聞いたこともありませんでした。大学病院では治すことを目標に、医師と患者が頑張っていますが、手の施しようの無くなった患者は途方にくれます。ホスピスはこのような患者に病状を緩和し、ぬくもりのある療養環境を用意しているようです。丹羽さんは一時、地元の東海市の病院に移るかどうか迷われましたが「治る見込みがないなら延命治療は止めてくれ」と言われ、２月末にホスピスに移りました。よく晴れた日で、８階の南側の個室は明るく、広く、ホテルの一室のようでした。

悲しいけれど穏かな暮らしがはじまりました。苦痛を和らげる治療はやってもらえますが、日が経つにつれ体力が落ちていきました。北海道の皆さんの寄せ書きや、服部優子先生がお持ちになった患者さんたちの寄せ書きの色紙が壁に、丹羽さんを励ましていました。いつも帰り際に、丹羽さんは胸の上に手を合わせ「ありがとう」と意思表示をされていましたが、これも出来なくなりました。

奥様から「お医者さんに『今日か明日だそうです』といわれました・・・」

ホスピスに入ったとき、部屋に備え付けのパンフレット「旅立ち・死を看取る」にもありましたが、死について船出が引用されています。賑やかに送られた船は港を出て、やがて沖に行き小さくなって、こちらの岸の人には見えなくなります。しかし、船に乗っている人はなんら変わりません。まだ見ぬ新しい港に、新しい人々に迎えられ、新しい生活が始まります。丹羽さんもこちらの人々には見えなくなりました。どこか新しいところで、ＡＴＭを語っていることでしょう。

丹羽浩介さんの死を悼む

尾張旭市　則竹　昌常

『お釈迦様』の所へ旅立たれてもう４ヶ月になります。
０２年１２月に入会し友の会の役員として、朝な夕な電話のやり取り、会合、病院廻りと、任意と善意を旗印によく働きました。何事にも全力投球のあなたにひきずられて、いろいろなことを経験させてもらいました。あなたのテキパキとした決断と実行力には目を瞠るものがありました。

２年後には身体に変調をきたし、まさに「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」となりました。人間にはひとりでどうにもならない弱点があります。私が入会した前後そんな経験をともにしたことをいまも思い出します。あなたの長い長い電話が役立ちました。私の人生の中でこの２年間は、あなたのピンクのシャツのように彩りのある時期で楽しく過ごしました。

あなたの好きな言葉に人事を尽くして天命を待つの言い換えで『天命を信じて人事を尽くす』というのがあります。ほんとうにそのような生き方をされたと思いました。

葬儀もしないという幕引きも実に丹羽さんらしい。だいだい丹羽浩介という名前がいい。そうじゃないですか。何処であれ、再会したら『上善水の若し』で一献としましょうか。

ご希望の方にさし上げます

○　昨年の全国大会・「シンポジウムの記録」が若干部数あります。

○　当会会員　今枝清美著　詩集「介護生活へ花束を」文芸社刊　700円

※　私は、祖父、母、祖母、義父、そして父の介護を経験した一人です。頑張れば頑張るほど、私の体は悲鳴をあげていきました。辛い日々でした。泣いてばかりの毎日でした。けれど、そんな中、いろいろな方に助けていただきました。大丈夫！一人じゃないよ。どこかで見守る人がいる。きっと誰かが支えてくれる。
ご希望の方は下記へお申し込みください。無料でさしあげます。
〒４５８－０８４７　名古屋市緑区浦里１－６８－５０８　越澤　博
TEL　０５０－３３３５－４９７０

『臨済録』のなかから　　丹羽　浩介

佛教は難しい或いは古臭い、と言うイメージが定着しており改めて学んでみようという人が少ないのは大変に残念なことです。しかし、岩波文庫で発刊されている『歎異抄』や『臨済録』は大変に優れた生活指導書であると思います。今回試みに『臨済録』を取り上げてみます。好評なら続けてみます。

古典で尚且つ宗教書を読み取る時に大切な点を書いてみます。仏典といわれるものの大半は、書かれた当時の中国語です、つまり古代の外国語です。生活自体が違います。習慣も違います。用語や何やかや、すべてが違います。しかし、人が生きるということに関しての原則は1000年や2000年で変わるものではありません。そこで、この点に着目して読み進めばよいわけです。一つ一つの用語の意味を論じてもおおよそ意味がありません。そういう読み方をしてみたいと思います。テキストはワイド版岩波文庫9です。

『臨済録』は今から約1200年前の中国の僧・臨済義玄の作といわれています。細かい詮索は止めておきましょう。日本の臨済宗の本家の人です。この書物に書かれていることは1回や2回読んでも何のことかは分かりません。読書100回意自づから通ず、その類のものです。でも、一度わかると総てがわかります。大変に魅力的な本です。不思議でも何でもありません。生きる基本が表現をたがえて書いてあるからです。①原文　②読み下し文　③現代語訳　④丹羽の見解の順で書きます。

①無事是貴人　但莫造作　祇是平常　你擬向外傍家求過　覓脚手。
錯了也。祇擬求佛　佛是名句。你還識馳求底麼　46頁

②無事是れ貴人　但だ造作すること莫れ　祇だ是れ平常なれ　祇だ是れ、外に向って傍家に求過して脚手を覓めんと擬す。錯り了れり。祇だ佛を求めんと擬するも佛は是れ名句なり。你還た馳求する底を識るや。

③何事もしない人こそが高貴の人だ。絶対に計らいごとをしてはならぬ。ただあるがままでよい。君たちは、わき道の方へ探しに行って手助けを得ようとする。大間違いだ。君たちは佛を求めようとするが、佛とはただの名前である。君たちはその求め回っている当人〔が誰であるか〕をしっているのか。

初めて読んでこの意味を正確に読み取ることは出来ません。しかし、2〜3回ゆっくり読めばなんとなく分かります。いつも私が言っていることです。というのも正確ではありません。私は、多くの祖師達が言われていることを納得して受け入れて、自分の言葉にしているだけだからです。では、③をベースに④に入ります。

★ 何事もしない人こそが高貴の人だ。・・何もしない人が高貴な人とは常識ではいえません。次に出てくるように自然体でいるのが良い、ということなのです。「何も悪いことをしていないのに私が何故このような病気にならなければならないのか」そこから抜け出せない人、クヨクヨ悩んでも仕方がないと気づいて

下さい。

★ 絶対に計らいごとをしてはならぬ。・・この場合の「計らう」とは自然にたいして自我を立てることです。自然の中に生まれ自然の中に育てられている人間が自然の法則に背いて何かをしょうとしても、それは出来ないことです。自然の法則が作用して目に見える時は納得しやすいのですが、心に働く作用は目に見えません。だから、その作用が自分にとって不都合に働いとき、人は苦悶し苦悩し、自虐的になりがちです。しかし、目を転じて考えて見ましょう。あなた以外の人が、どれだけハンディキャップを背負った人生であろうとも、あなた自身は痛くも痒くもありません。今回はたまたまそれがあなたの番であったに過ぎません。あなたが人のことに対して冷静でいられるように、自分のことに対しても冷静が保てればよいわけです。

★ ただあるがままでよい・・というよりも、心を平静に保ち、苦しみの少ない人生を送ろうと思えば、自然に逆らうことなく、今のおかれた状況を受け入れるのが一番だからです。

★ 君たちは、わき道の方へ探しに行って手助けを得ようとする・・臨済はいっています。アァ、ソレナノニ、ソレナノニ。君たちはどこを走り回わっているのかい。答えがそこにあるではないか。自分のことですよ。自分のことなのです。

★ 大間違いだ。君たちは佛を求めようとするが、佛とはただの名前である・・これは。少し解説がいります。佛とは何かは、次に回します。

★ 君たちはその求め回っている当人〔が誰であるか〕をしっているのか・・シッカリ・セーイ。臨済の苛立つ大声が耳元で聞こえます。あなたのことなのです。病人はあなたであり、苦しむのもあなたなら、そこから抜け出して、心闊達に人生を楽しく生きるのもあなたなのです。

今回は、臨済の思想のさわりの部分を引用してみました。病気に対処するには、現在の自分を受け入れることです。そこのところがスタートです。いかがでしたか。宗教書といっても、古典的なものにはこのようなことが書かれています。

『臨済録』2回目、テキストは前回と同様ワイド版岩波文庫9です。50頁。原文は略します。漢字の読みは、たとえば「平常」を現代国語式に「へいじょう」と読んでも構いませんが、ここは古典らしく当時の読み「びょうじょう」とします。

師　衆に示して云く　道流　佛法は要功(ゆうこう)の処無し　祇(た)だ是れ平常無事(びょうじょうぶじ)　屙屎送尿(あしそうにょう)　著衣喫飯(じゃくえきっぱん)困(つか)れ来れば即ち臥す　愚人は我を笑うも　智は乃ち焉(これ)をしる　古人云く　外に向って工夫を作(な)すは　総て是れ痴頑(ちがん)の漢なり　と祇且(しばら)く随処に主と作れば　立処(りっしょ)皆な真なり

本題に入る前に、先回「佛」とは何かが積み残しになっていました。実はこの「佛」というものの理解が出来ていないとどの仏典を読んでも、理解が上手くいかないと思います。一口に「神仏」と言います。例えば吉川英治の『宮本武蔵』には「神仏を敬い神仏に頼らず」という吉川英治が表現化した禅の思想が出てきます。これは「自然は敬するものではあるが、一度生をうければ、そこには自己の決意と努力しかない」と解すべきでしょう。

ところが世界には無数の神々と無数の佛さまがおいでになります。近代日本哲学の創始者・西田幾多郎はその著『善の研究』の中で世界の宗教の根源に触れ、その大半は自然そのものを機軸とする、と言う意味のことを言っています。世界的に神仏は自然の在りようを擬人化したものと考えるのが、概略的な範囲を外さない所ではないでしょうか。

さて佛です。佛とは元来「悟った人」つまり、人間世界において心の動じない人、と言う意味です。死者を佛さん、と呼ぶのは亡くなれば、二度と人間社会の煩雑さに心を惑わすことがないからです。これだけでは佛を説明したことにはなりません。仏教学ということからいくと、佛とは自然そのものです。自然そのものというよりも自然そのものを運営する管理法則と言った方がよいのかもしれません。この佛を専門的に「法身佛・ほっしんぶつ」と呼んでいます。

しかし、この自然そのものを運営する管理法則を「佛」と呼んだのでは、理解しにくい面が多々あります。この自然の管理法則である佛は目に見えません。そこで役割分担をして、阿彌陀佛とか薬師如来とかが誕生しました。この自然の運営管理法則を擬人化した佛様方を「報人佛・ほうじんぶつ」と呼んでいます。佛教をお始めに成ったのはお釈迦様です。そこで、お釈迦様など、人間であって迷いのない道を体得された方々を「応人佛・おうじんぶつ」と言っています。整理します。佛とは本義的には自然の運営を支配する法則のことです。従って、先回積み残した佛が何であるかにたどり着きました。先回にこういう表現がありました。

★　大間違いだ。君たちは佛を求めようとするが、佛とはただの名前である・・という

くだりの部分の意味が判然とします。

人生には色々の生き方や考え方があります。例えば私は発病するまでに心底気苦労の多い人生を送ってきました。気苦労でくたくたになり、仕事面で評価される働きをすれば、無理がくるのは当たり前です。こんな例があります。殺人を犯して逃げ回り時効寸前に逮捕された犯人が「これで逃げなくて良い。ほっとした。」と言っていました。私の場合もそれと同じ心境でした。「あなたはパーキンソン病です」と言われ、これで気苦労することもないと思いました。そこから 24 年、私は思考と行動を変えることが出来ました。
それは、無理をしない、自然に即した生き方をする、とうことです。・・・間違わないで下さい。無理をしないと言うことと、努力しないと言うことは全く意味が違います。努力は今も一生懸命にしています。明るく楽しく、努力しているのです。

我が尊敬する名古屋大学の祖父江元教授は、敬愛を込めて丹羽のしたこと、していることは丹羽独自のもので、誰にも出来ない、といわれます。そのとおりだと思います。丹羽は丹羽です。ジャー、イチローはどうでしょうか。イチローには誰もなれません。しかし、全国の野球少年がイチロウーを目差して励んでいます。マザーテレサ師には、私はその精神の昂揚性という点において 1 万年生きても及びません。でも、行動は真似ることは出来ます。そして、現実に行動を真似ることにより多くの人によい影響が出ていると思います。人生とはそういうものだと思います。

『臨済録』でした。先生は若い修行僧を前にして次のようにいった。自然の働きには人間として造作をくわえようがないではないか。ただ、ありのままの自分をうけいれれば良いのだ。日常生活は糞をたれ放尿し、着物を着ては物を食べる。疲れたら横になる、ただそれだけのことだ。愚かな人にはここが分からないが、知者ならよく分かる。古人も「自分の他に造作を施すのは馬鹿げたことだ」と言っている。その場その時に自分と言うものをしっかりつかんでいれば、それ以外に真実のありようがないではないか。間違わないようにしてください。精神世界の話です。ありのままの自分を受け入れよと言っています。食べて、着て、寝るのにはその対価が必要です。食べ物や着物、それに住居は誰があなたに供給しますか。自分の過去の蓄積、家族の支援、隣人や社会、医療制度や国家の仕組み、これらのことがあなたを支え生かさせてくれているのです。不満かもしれません。しかし、みんな一生懸命です。あなたのおかれた立場を受け入れず、困惑と苦悩で過ごすのも、感謝と生きる喜びで過ごすのも、それはあなた次第です。自然の中に生きるとはそういうことなのです。

「随処に主と作れば・・・」

50 頁と 70 頁にでてきます。意味的には、あなたはあなたを取り巻くものに(精神的に)振り回されることなく、自立心を保ちなさい、ということになります。

知識と体得とは基本的に違います。病気を受け入れる、私が何回も書いていることです。この私の文を読んで「なるほど病気を受け入れればよいのか」と頭で理解したとします。しかし、これは、単に知識があなたの頭に入ったのに過ぎませんから、次の瞬間にはもう不安が起きてきます。歩けなくなったらどうしょう、薬が効かなくなったらどうしょう。どうしましょうね。どうもこうもすることはありません。なぜなら歩けなくなったら歩けないのです。薬が効かなくなったら効かないのです。この問題は次の例だと良く理解できます。死んだらどうしょう。自分におきる問題として捕らえれば、歩けなくなったらどうしょうも、死んだらどうしょうも同じなのですが、前者には、①周囲の人に迷惑をかける　②何も出来ない自分が情けないなどと言う不安ないし恐怖感があります。恐怖感が人の判断を誤らせます。

病気を受け入れるということは、この精神的な不安ないし恐怖感を洗い落とすことです。筋肉が硬く萎縮していたのでは、自由に動けないのと同じように、あなたの精神が不安または恐怖感で自由度が低下していれば、精神の萎縮→　肉体の萎縮→精神の萎縮と言う悪循環にはまり易くなるからです。現在の自分の状況を受け入れるということに関しての必要なことは、よそ見をしない、人を羨まない、このことに尽きます。

一寸考えてみます。人を羨んで何か良いことがあるでしょうか。どのみち、あなたはあなたであり、他の人と絶対に変わるわけには行きません。それなのに人を羨んでどうするのでしょうか。人の一生は自分持ちです。助け合わなくては生きていけません。しかし、頼り切るのは、自滅への早道です。ここでいう、頼り切るとは、精神的に自立していないことです。助けてもらったら「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えます。人に何かをしてもらったとき「ありがとう」の言葉が素直に心の底から出れば、それはあなたが、病気を受け入れているということを体得したことになります。この話は体験してみれば分かります。

過日、愛知難病連主催の難病者による人形劇を見せて戴きました。電動車いすを器用に動かすその女性の両足はありません。両手は捻じ曲がり10歳くらいの発達状況です。オカッパ頭のその人はどう見ても子供に見えます。話しかけてみました。人は私に言います、良く話かけるな、と。私は両親の薫陶が良かった為か差別心が希薄です。このように育てていただいた両親に感謝しています。相手の人から言わせれば、気の毒そうな目で見られ冷ややかに遠巻きにされるのが辛いので、私のようにだれかれと無く話しかける人間が歓迎と言うことになります。しかし、人前で堂々としておられるこれらの人は、モー、とっくの昔にそんな被差別心を克服されています。この被差別心を克服する過程が大事であって、視界ゼロ、どこになにがあるか分からないイバラの道を歩み通して、手に入れられた現在の境地です。人が何を言おうと、生き抜くという確信が揺らぐことは無いと思います。

横道にそれました。元に戻します。聞けばその人は25歳との事でした。彼女はすごく明るく健やかな印象を私に与えてくれました。彼女は家族の、社会の、国家の助けがないと生きていけません。しかし、彼女は精神的に自分の置かれた状況を受け入れています。
私の言いたいのはこの点です。病気を受け入れようが、受け入れまいが、あなたの病状が変わるわけではありません。しかし、あなたも、今例を上げた人と同様、家族や社会、そして国家の助けが無いと生きていけません。そうしたら、そのように対応すべきです。

この地球上に生起する総ての事柄は、
① 何かが何かに変化している
② したがって何かを手に入れようとした何かを手放さなければらない

と言う原則で動いています。いま、あなたは家族の助け、社会の助け、国家の助けを受け入れています。それに対してあなたが成すべきは、感謝の心で対応し健やか印象を周囲に醸し出すことではないでしょうか。あなたが家族や社会、それに国家の助けを受けながら、その上に暗く沈んでいたのでは、あなたは何の為に生まれたのでしょうか。

しかし、患者であるあなたばかりの問題でもありません。私達を助けていただいている人たちは、精神的にも、社会正義的にも、公徳心の上から言っても、人としての水準が高く優れた人たちです。しかし、皆様に、特に医師の方にお願いしたいこともあります。確かに私達は健康を害し社会や国家の手助けを必要としています。しかし、精神的に自立したいと願ってもいます。ひとりひとり個性が違います。ここは本当の所難しいのですが、この心情をお汲み取りの上ご援助ご指導下さい。〔この表現では分からぬ、と言われるでしょうね。勝手な、勝手な主張です。優しくそして甘やかさせずに、とお願いしています〕。結局、臨済のいう「随処に主と作れば・・・」とは、あなたは、あなたとして生まれ、あなたとしてしか生きようがない、という誰もが知っていることを主張しているに過ぎません。それが自然なのです。もし、それでも、あなたにこれが出来ないというのであれば、それはあなた自身の生き方の問題です。

テキスト　岩波文庫ワイド版9　67頁　原文略

> 師　衆に示して云く　如時(いま)の学道の人は　且(しばらく)自ら信ぜんことを要す　外に向って覓(もと)むること莫れ　総べて他(か)の①閑塵境(かんじんきょう)に上(のぼ)って　都(す)べて邪正を弁ぜず　祇(た)だ祖有り佛有るが如きは皆な是れ②教迹(きょうしゃく)中のことなり

師は皆に説いていった。「今、佛道を学ぼうとする人たちは、ともかく自らを信じなくてはならない。決して自己の外に求めるな。そんなことをしても、あのくだらぬ型にのっかるだけで、邪正を見分けることは全然できぬ。祖師がどうの、佛がどうのというのは、総て経典の上だけのことだ。

日常生活でみられない語句を先に見てみます。『佛教語大辞典』
① 閑塵境・・・世俗の煩わしさを離れた静かな境地。
② 教　迹・・・佛教上の現象的、表面的な事実。

因みに経典は膨大な量です。日本で編纂された『大正新脩大蔵経』は、全文漢文で、17字×29行×3段×平均1000頁×100冊、400字詰め原稿用紙で約37万枚と言うものです。ブリティシュミュージアムはじめ世界の多くの博物館の所蔵品となっており、その内容からして第1級の仏教研究上の原典として扱われています。愛知県立図書館にも一そろい在ります。大正期、日本は世界に羽ばたいていたのでしょう。
佛教では、ここに書かれている総てのことは現在生きている人に対する教えと考えます。つまり、経典にかかれている総てが方便なのです。この辺が一神教との基本的な相違点ではないでしょうか。こんなことを書いていると、読むのヤーメタと言われそうです。話を元に戻します。

人が精神的欲求または満足の為に何かを求めた時に一番陥りやすい誤りは、本来自分自身に具備しているものを、つまり、自分に既に具備されているから他所からは手に入れることが出来ないものを、自分以外の何かから得ようと思うことです。チルチルとミチルの「幸せの青い鳥」探しがその典型です。幸せは、自分自身の自覚の問題です。それを何も探しにいくことは無かったことなのですが、お二人さんは外に探しに出かけましたね。今回、臨済が言っていることは、これと全く同じです。

もう一つ言っておきたいことがあります。この本が書かれた1200年前の中国社会の佛教にたいする考え方や理解と、21世紀日本に生きる現代人の考え方や理解との違いです。お寺のことを、例えば「比叡山延暦寺」といいます。これは文字通り比叡山にある延暦寺を意味しています。お寺は山にありました。それは、修行の場つまり精神の高揚と昇華を助けるためにそのほうがよかったのでしょう。そして、修行僧達は命がけで真理を探究していました。ところが現代日本佛教界は、釈尊の心なく、あるのは葬儀と年忌法要に明け暮れる僧の姿です。これでは、当時の模様を頭において読む、古典の読みの基本的条件を整えるのが大変です。

『臨済録』には、日常生活で使わない言葉がやたらに出てきます。読みも違います。そして、このような難解なものと言って途中で止めてしまいます。また、現代の「老師さま」と敬称される方々の提唱なるものをお聞きしても、語彙の解説に専ら専念されており、爾後に、さて今何を聞いたのか分からぬ始末です。

ところが『臨済録』は難しくないのです。人としての生きる規範が書いてあるだけです。その規範とは、ただ1点「自己は自己の内にあり、目覚めよ」につきます。私の表現による「あなたの現状を受け入れなさい」と同じです。心の安寧はこれしかないようです。
現代語訳はテキストのものをそのまま記載しておきました。一寸私の解釈を入れて意訳してみます。先生は弟子達に説きました。「生きるということは、自分自身を見極めることです。自分を信じなくて、自分以外の何に求めてもそこに何かがある訳はないでは無いですか。誰かれがそう言ったとか、仏の真の姿は何かとか、いくら討論しても、考えてみても、所詮そういうものは先人が、自分の到達した境地を後世の人たちに伝える為にメモしたものに過ぎないではないですか。よくこの点を考えなさい。」

こんなことなのですが、こんなことを体得するのに２０年掛かりました。２０年もかけたのかと言わないで下さい。その過程が大切なのです。この過程と言うものを大切にしないで、結論だけを手に入れようとしても、それはなんの役にも立たないでしょう。なぜなら、それは人のことではなく自分の事だからです。この世の存在の中で、自分という者がいなかったとしたら、それは何も無いのです。自分というものが、考えるから総てのものがあります。西欧近代哲学の祖ルネ・デカルトが言ったと学校で教わりました。世界の言葉にインド・ヨーロッパ語というのがあります。インドに伝わる経典の内サンスクリットで書かれたものがあります。このサンスクリットがインド・ヨーロッパ語に入ります。近代フランス語にどれだけ似通っているかは知りません。しかし、デカルト氏が仏典を読んでいたことは間違い無いと思います。私はインド仏教を学ぶうちに、デカルトの学説が佛教の唯識学派の翻訳ないし紹介であることに気付きました。デカルト氏の活躍は近代西欧哲学という狭い範囲であり、それが世界的というか人類に大きく貢献をしたものではなかった、と考えるのが正しいようです。中学校保健体育のテキストに「健康な精神は健康な肉体に宿る」とありました。これもまた、いい加減な話です。文部科学省に物が言いたいと思います。義務教育で変なこと教えないで下さい。

『臨済録』５回目、今回で終りにします。何回書いても結論は一つですから。「生

きよ　自分を知れ」だったですね。今回は２０頁
赤肉団上に一無位の真人あり　常に汝等諸人の面門より出入りす　未だ証拠せざる者は看よ　看よ

テキストの現代文解説によると「この肉体には無位の信人がいて、常にお前達の顔から出たり入ったりしている。まだこれを見届けておらぬ者は、サァ、見よ、さぁ見よ」
これで、意味が分かりますか。分かりませんね。だから難しいとなります。読んでも読まなくとも構いませんが、言葉にとらわれなくて、いわゆる心眼で読むという訓練の方が大切なような気がします。私流に読むと「あなた自身が権力とか地位に惑わされない人なのです。そのあなたを生かすために自然はいつも呼吸をさせてくれています。このことがまだ分かりませんか。自分以外の外に求めてもなにもありませんよ。ですから自分自身よく見極めなさい。」これなら少し分かります。

実はこの原稿は平成19年11月15日より22日までの８日間に集中的に５回分を書きました。すごい集中力だとか、すごいバイタリティだとか人様は言われます。また、若年発症者はタイプが違うとか、丹羽は特別だとか言われます。その種の言い方をすれば、人間の誰一人とて特別でない人はいなのです。そして共通点はパーキンソン病を罹患していることです。私が特別なのは、何回も何回も自分自身の弱点を人様にさらけ出してきたことです。人様に弱点をさらけ出すごとに、私の心は不動に近づいていきます。強くなっていくことが分かります。

良く、パーキンソン病になる人は「真面目で優しい人」と人様はいわれます。特に医師の方は、私どもに気遣っていただき、そのように言われます。有難いことです。若し医師の方が私の言うような表現、つまり「なにが真面目で優しいものか　単に神経質で気が小さいだけではないか」と言われたとしたら、それを言われたパーキンソン病患者の多くの人はその言葉のダメージから立ち直れないでしょう。しかし私は患者です。しかも私は自分のことをいっています。この言を愛知県の会員さんはもとより全国の会員さんに言い続けています。今までにこの私の発言に対して誰一人として、その場で、言辞でもって賛意を表した人はいません。大抵の人は私の発言を聞こえなかった振りをします。困ったような顔をされる方もいます。丹羽よ、それは違うといって反論した人はいません。対面して第三者の話をしているのではないのです。私とあなたのことを話しているのに、否定も肯定もしないというのは、恐らく大半の人が其れを内心でお認めになっているように思うのです。ここが問題のような気がします。

言葉を変えます。あなたが親から戴いた体、どうして神経質でいけないのですか。どうして気が小さくていけないのですか。いけない理由はタップリあります。なぜなら、私自身が嫌になるほど体験してきたからです。神経質で気が弱いと、生きていくのに疲れます。さりとて、性格を変えることはできません。ここに葛藤が始まります。その葛藤の蓄積が疲労として体内に堆積していきます。益々疲れます。でも、人様に伍して生きていかねばなりません。心を仮装します。心の仮装が身につきます。何とか持ちこたえてきたこの生き方を人にとやかく言われる必要は無い、しかし、丹羽の言うことも一理あるな、こんな思いの人に更に言います。今回の臨

済の言葉はあなたにピッタシではありませんか。あなたはあなたでしかこの世に存在のしようがないのですから。だから自分を受け入れるしかないのです。自己否定ばかりしていると、幾つになっても劣等感から抜け出せません。これで心を晴らし、パーキンソン病との決別を願っても無理です。

『臨済録』完

休題　お付き合い有難うございます。
現代日本人の多くは宗教と言うと顔をしかめます。私は神仏に頼るほど弱くは無い、といわれます。これを聴く時に私はその人がきっと勉強もせずにそういっているのだなと思います。釈尊の説かれた教えは科学そのものです。オカルト的な要素は一切ありません。だから現代に通じるし、人間の生きる指針となるのです。釈尊の説かれた要点。

1　総てのものには原因があるから結果がある･･･縁起説
2　総てのものは変化する。如何なる存在も不変の本質を持たない
　この二つが分かれば心が落ち着く･･･三法印
3　迷い、欲望、があるから人は苦しむ。迷いや欲望を滅する生活をする・・・四諦説と八正道
4　悪いことをしません。善いことをします・・・七仏通戒偈
5　人様の幸せのため尽します。　自分を磨きます・・・四弘誓願

いかがです。１は自然の解明　２は自然の中での身の処しかた　３・４・５は生活実践規範。
奇跡も霊界も死後のこともありません。もちろん『大蔵経』には色々のことが書かれています。総て基本への導入です。ついでに言えば親鸞聖人により始められた浄土真宗は釈尊から最も遠く、高野山の真言密教は釈尊が聞かれたら　アレレ・・・とおもわれるでしょう。釈尊もキリストもオウム真理教も昨日できたものまでも「宗教」の言葉一つでくくられたのでは、おら一違うわいと言いたくなります。霊を説くＴＶ番組に人気があるようですが、少なくとも釈尊は「霊」に対しては何も語っていません。
鈴木大拙師も法念上人も親鸞聖人も臨済師もすべて大切な先生です。でも私は釈尊に救われました。釈尊の心を戴いた時から、私の平穏と人様への奉仕が始まりました。
・・・ここまでお付き合いして戴いた方、ありがとうございます・・・

５回にわたりました「臨済録」、纏めて編集しました。入院を前に丹羽さんが私達に残された作品です。心打たれます。最後の１２０日間の入院生活、身を以ってお示しくださいました。ありがとうございました。（越澤）

服部神経内科　本町クリニック

〒460-0008　名古屋市中区栄　3丁目20-29
院長　服部達哉　　副院長　服部優子

診療時間

時間＼曜日	月	火	水	木	金	土	日
午前 9：30 ～ 12：30	○	○	○	／	○	○	／
午後 3：00 ～ 6：30	○	○	○	／	○	／	／

この他に祭日は休診とします

電話　０５２－２４９－０１０１

人間の身体は使わなければ退化します　頭も身体も使いましょう　自分で出来る人はご自分で　手伝いが要ると思われるお方は　当社へ
当社は「愛知県パーキンソン病友の会」の推奨マッサージ出張サービス会社です

(有) メディカル在宅マッサージセンター
〒453-0851　名古屋市中村区畑江通　8-18-1
お休み　第２、４土曜日・日曜日・祝日
フリーダイヤル　０１２０－１９４００４

印刷は　**一粒社**

『愛知県支部会報』は半田市の一粒社にお願いしています
電話　０５６９－２１－２１３０

友 の 会 の 歌

伊藤フサ子さん

1．こんにちは　　元気ですか

みんなの　　笑顔に会えたなら

山の　　雪解けのように

心が　　楽しくなるでしょう

2．こんにちは　　苦しくないですか

みんなの　　声が聞こえたなら

雨上がりの　　虹のように

心が　　明るくなるでしょう

3．こんにちは　　また会えたね

みんなで　　歌を歌いましょう

朝の　　小鳥のように

さわやかな　　毎日が来るでしょう

益田　緑さん

「始めの一歩」

1．　その時　私　思ったの
やってみなけりゃ　わからないって
始めの一歩を　踏み出せば
皆の力が集って　なんとかなるって　感じたの
明るく　楽しい　毎日は
まずは　始めの一歩から

2．　その時　皆で　笑ったの
やってみたから　出来たって
始めの一歩を　　踏み出せば
皆の心がまとまって　失敗したって　いいじゃない
明るく　楽しい　　毎日は
まずは　始めの　一歩から

「元気を出そう」

1．今日は　少しだけ早起したの
光る若葉を　見るために
小鳥の声を　聞くために
歩けない時　辛いけど
良い日もある　私達
仲間と会えば　元気がでるわ
明るく　楽しい　毎日を

2．今日は　少しだけ散歩にでたの
小さな草花　見るために
誰かと　お話するために
動けない時　辛いけど
良い時だって　必ずくるわ
仲間と歌おう　元気が出るよ
明るく　楽しい　毎日を

夏　の　歌

神戸市　**植木　清理**

如露の水を顔にかければ拭いいる雨蛙の手の小さきに見惚る

われの手へ鎌をかざして身構えぬ生れしばかりの蟷螂の子が

濡れ紙に似し花びらのあさがおの開花を助くわが手の武骨

異界への入り口のごと朝顔の蒼き漏斗の奥底覗く

上る蟻下れる蟻の列つづく樫の老樹のゆらぎなき夏

健　や　か　に

神戸市　**浮田　伸子**

パーキンソン病む友ともに編集す口数少なくひたすらにして

手の震へパソコン打つとき止むといふ図表確かに作る人はや

面持ちのややかたき今日健やかに県民感謝賞受け取られたり

端正な短歌詠む人あるときは毅然と意見のべたまふなり

鳥を愛して森を愛して老いたまふ明日よりの日々やすけくあれよ

三箇月違はず飲し抗生剤こんなに真面目なわれにおどろく

物体としての二時間おもむろに麻酔さめゆくベッドのうへに

鼻骨やや削りたるらし三枚の麻酔ガーゼをつめられている

ドクターの声聞きわけて眠るなり入院六日めあめのふるよる

物もらひ麦粒腫はためばちとふこのウイルスにわれは愛さる

八日のち家にもどりて水を撒くよみがへるものなべて楽しく

茶摘みせん楽しさ失せし日々のおぼろなりけり術後あとさき

夏山　五句

緑区　**越澤　博**

雪渓を横切るべく径ついてゐし

雪渓や渡る一歩を確かめて

暁に雲海動き初めにけり

眞夜の月雲海照らしをりにけり

一列になりて行きけりお花畑

夏山の魅力は雪渓、雲海、お花畑・・・。槍ヶ岳に登ったのは二十歳代だからもう五十年も前のことです。今でも鮮明に覚えています。新宿を夜行で発ち、翌朝上高地に着きその足で一気に槍ヶ岳の肩の小屋まで登りました。途中、雪渓を横切ったのも初めての経験でした。翌朝、槍ヶ岳の頂上に立ちというと恰好いいのですが頂上の岩にへばりついていました。朝日に槍ヶ岳の穂が深い谷を隔てて日時計よろしく影を映していました。槍ヶ岳から燕岳へ尾根歩きをして中房温泉に下山しました。四十代にこの逆コースを歩きましたが、一泊余計にかかりました。

※ 前ページの短歌は私の旧友とそのお友達からいただいたものです。浮田さんとは二十年来（賀状交換）のお付き合いです。始めは二人とも俳句仲間でしたが、何時の頃からか浮田さんは短歌の方に行ってしまいました。今は神戸で「文学圏」という短歌月刊誌（６２８号も続いています）の編集発行人をしています。植木さんはパーキンソン病患者さんで、同じく編集に携わっておられるそうです。ご健闘を祈ります。

一日交遊会に参加しての想い

南区　山田　良知

さあ、行こう！
バスに揺られながら会場に向かう、すでに園内は人々が散策中です。
天気は晴天、会場のガラス張りの建物はキラキラ光りまぶしい、役員の越澤氏が車椅子をゆっくりと押しています。朝の挨拶もそこそこに室内に入る。
役員さんの案内で待つ事30分、机上には参加者の名簿とドロップが数個添えられてある。
紙コップと飲料水も会で用意したものです、グイ〜ッと2杯も頂いてしまいました。

11 時、会長の大道氏 「今日も一日、ATMの気持ちを忘れずに・・・・・」 と高らかな挨拶がありました。
講師の先生はユーモアを混えながら、「長良川のウカイです」 と自己紹介されました。
音楽療法がスタートしました。 呼吸法の指導後、 息を整えてから;

“口を大きく開けて、あ！　もっと強く！　あ！　もっと強く あ！
のどを広く開けてください！　もう一度長く伸ばして！　あ〜！”

先生が歌詞を書いた紙をパネルに張る。 夏の思い出(尾瀬沼)の歌です。先生の伴奏で合唱、続いて会の人のリクエストで一曲、だんだん調子が出てきました。
坂本九チャンの曲も合唱し、先生が用意してくださったトーンチャイムとベルを使いながら音楽療法のボルテージも加熱しました。
しらなかった口内の開放で喉も滑らかになりました。教わった発声を今後も繰り返し、実践したいと思います。
鵜飼先生のさらなる発展をお祈りします。「 **アリガトウ** 」

昼食は極上の割り子弁当で舌づつみを打ちました、とてもおいしかったです。
第二部はとても気さくな印象のある埜口先生のリハビリテーションです。先生からはP病患者の特性についてのお話がいくつかありました。その中でも体のメンテナンスをしっかり実施する事の大切さを、実技を通して御指導して下さいました。
椅子の背もたれにつかまりながら上体をUPさせての片足立ち、首の横ひねり、手首を包み込みながらの前倒し、もも上げ、足首を持ち上げる等々ゆっくりな動作でやる。
P病では寝返り、起き上がりの出来にくい人に対しての実技指導がありました。後半の質問の時間もたっぷりありました。
今日、学んだ内容を繰り返し実践していきたい。

交流会に参加する人数も多くなり、開催の回数を増加させたい提案もありました。今日の会でも講師の先生との熱のこもった対話もあり、自己内の問題点を解決方向に導いてくれる利点があります。 P病友の会の企画運営力と会のMemberの熱意が感じとれるものになりました。P病友の会の機関車はエネルギーを込めて走ります。

汽笛の音色は **ブラボー！、 ブラボー！**

名大病院ナディックでの音楽療法と院内コンサート

中部学院大学　　**鵜飼久美子**

☆音楽療法のこと☆

ナディックでの音楽療法は、月に1回行っています。ちょうど7月で半年が経過しました。回を重ねるにつれて私が思うことは、患者さんにとって、決められた時間に決められた場所に出かけることが、いかに難しいかということです。きっと、参加される皆さまは,朝から体調を気遣い、準備されているのだろうと想像しています。
つい先日もこんなことがありました。毎回その月に誕生日を迎えられる方のリクエスト曲を歌います。O さんから「今度は私の誕生月だからこの歌を歌いたい」と事前に楽譜をいただきました。ところが、当日になって、いらっしゃいません。どうかされたのかと心配しましたが、夜になって、「朝から身体の動きが悪くて、とうとう出かけられませんでした」、と電話がありました。これに似たことは他にもいくつかありました。勿論その他の理由で参加できない方もいらっしゃるでしょうが、いずれにしても、決まった日に、その場に出かけるということは、それだけで十分価値のあることだと私は思っています。しかし、それで終わるわけにはまいりませんので、皆さんと歌を歌います。歌っている間に少しずつ、‘仲間同士という思い’が通い始めたような感覚があります。

☆クリスマスコンサートの計画☆

その‘仲間同士という思い’を形あるもので表現する場として、年末に名大病院で院内コンサートを開きたいと考えています。プログラムは患者さんが主体となった音楽療法的なコンサートにしたいと思っています。

1．　前半は、会員の皆さんによるベル・トーンチャイムの演奏と
　　プロの弦楽四重奏との合奏　　（クリスマスにちなんだ曲）
2．　後半は、プロの演奏を聴く
3．　最後に、会場に来られた方々全員で歌を歌って一体感を味わっていただく

平山先生と名大病院の了解は得られましたが、具体的なことは決まっていません。
詳細が決まりましたら、この紙面にてお知らせいたします。

ナディックでの8月〜12月の音楽療法

8月12日　・　9月　2日　・　10月 7日

11月11日　・　12月16日

時　間　：いずれも火曜日　午後2時30分〜3時45分
場　所　：名大病院　広場ナディック（新中央診察棟2階）
※どなたでも、参加できます。一度のぞいてみてください。

パーキンソン病と特定疾患の一部改正

副会長　**益田　利彦**

会報 39 号でお知らせしました「パーキンソン病と特定疾患」の記事に、一部改正がありましたので訂正します。
会報 39 号、23 ページの **８．《受給者票の自己負担限度額》**の表の、階層区分が、平成 20 年 7 月 1 日 から 一部改正され、次表のようになりました。

［ １ヶ月の自己負担の上限額 ］（１医療機関ごと）

階層区分		入院	外来等	生計中心者が患者本人の場合
重症者		0	0	0
A	生計中心者の市町村税が非課税の場合	0	0	0
B	生計中心者の前年の所得税が非課税の場合	4,500	2,250	対象患者が、生計中心者であるときは、左欄より算出した額の 1/2 に該当する額をもって自己負担限度額とする。同一生計内（同じ生計中心者）に 2 人以上の対象患者がいる場合の 2 人目以後の方は、左欄の 1/10 の額が自己負担の上限とする。
C	生計中心者の前年の所得税年額が 5,000 円以下の場合	6,900	3,450	
D	生計中心者の前年の所得税年額が 5,001 円以上 15,000 円以下の場合	8,500	4,250	
E	生計中心者の前年の所得税年額が 15,001 円以上 40,000 円以下の場合	11,000	5,500	
F	生計中心者の前年の所得税年額が 40,001 円以上 70,000 円以下の場合	18,700	9,350	
G	生計中心者の前年の所得税年額が 70,001 円以上の場合	23,100	11,550	

※　院外処方による薬局での保険調剤や訪問看護は、受給者票の提示により自己負担額はありません。

改正理由は、税源移譲（税率の変更）が行われたことにより、ほとんどの方の平成 19 年度分の所得税が減るため、これに対応されたものです。
改正箇所は；下線付き箇所（例 5,000 ）。

竹頭木屑

緑区　**越澤　博**

○　七夕・棚機

本来は旧暦７月７日の行事でしたが、今は新暦・陽暦で行うところが多くなりました。陽暦では丁度梅雨のころで、過去１０年のうち、２～３回しか晴れていません。旧暦の行事を陽暦に置き換えて行うのですから仕方ありません。また地方によっては８月７日に行うところもあります。

元来、棚機とは夏と秋の交叉（ゆきあい）の祭りでした。棚とは階上につくり出したかけづくりであり、この棚において機織る娘が棚織女（たなばたっめ）であり、神のために機を織ったということです。

奈良時代に漢の乞巧奠（きこうでん）がこの行事と重なり、盛んになったといわれています。乞巧奠とは女子が機織などの手芸が上達することを願って祭ることで、七夕のころ、鷲座のアルタイル（牽牛星・彦星）と琴座のヴェガ（織女星）が、天の川を挟んで良く見えるので、年に一度の逢瀬にたとえて、いろいろな空想の伝説が伝わっています。また、字が上手になるようにと、芋の葉の露で墨をすり、字を書いた子供の頃を思い出します。

七夕竹借命（しゃくみょう）の文字隠れなし　　石田　波郷

波郷は戦地から持ち帰った胸部疾患の再発で東京療養所（清瀬村）に入院、数多くの療養俳句を作りました。中でも句集「借命」は代表作であります。七夕竹に、願い事を書いて飾る風習はよく知られています。その中に「借命」の文字を見出したというのです。療養者の薫にもすがる思いの「借命」の文字に驚き、自分の気持ちでもあり、自分の言葉で「隠れなし」と一句を作られたようです。

１９７１年8月７日第３種郵便物認可　毎月１・６の日発行
２００８年　8月　１日発行　　増刊通巻第６３１２号
ＳＳＫＡ　全国パーキンソン病友の会会報・愛知県版４０号

原稿募集　**内容は特に限定しません。会員を勇気付けるものをお願いします。新しく入会された方々に闘病の指針をお示しください。**

送付先　郵便　〒４５８－０８４７　緑区浦里１－６８－５０８
ＦＡＸ　０５０－３３３５－４９７０
メール　ｋｏｓｈｉｚａｗａ@ｏｒｅｇａｎｏ．ｏｃｎ．ｎｅ．ｊｐ

☆ 編集長の池田さんが体調をくずし、急遽越澤が代わりました。池田さんは幸い経過良好ですので間もなく復帰されることと思います。暑い折ですので、皆様もどうぞご自愛ください。

☆ 病状改善のひとつとして、みんなと話し合うことが大切だと聞きます。友の会としましても一日交遊会などお話合いの機会を増やしていきたいと考えています。また、会報を通じて日ごろ考えていることを発表しあっては如何でしょう。

☆ 文芸サロンにも作品をお願いします。（越澤）

編集人　愛知県パーキンソン病友の会　越澤　博
発行人　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073　東京都世田谷区砧６－２６－２１
TEL　０３－３４１６－１６９８
FAX　０３－３４１６－３１２９
加入者　愛知県パーキンソン病友の会　越澤　博
〒458-0847　名古屋市緑区浦里１－68－508
TEL/FAX　０５０－３３３５－４９７０
定　価　５００円